本庄村史資料

永田家文書（近世・明治）

神戸深江　生活文化史料館

目次

【近世】

1 覚　銀五百匁　木屋清右衛門　1
2 覚　銀弐百五拾匁　仝　人　1
3 質入証文之事　天保三辰六月　1
4 畑小作証文之事　天保九戌十二月　2
5 質物ニ差入銀子借用証文之事　天保九戌六月　3
6 畑地質入銀子借用証文之事　天保九戌十二月　3
7 本田返シ畑地証文之事　天保拾四年卯三月　4
8 質物差入銀子借用証文之事　弘化弐巳八月　5
9 譲渡申畑地之事　文化十一年戌四月　6
10 譲渡申畑地之事　文化十一年戌四月　6
11 賣渡申家屋舗之事　文政六年未三月　7
12 賣リ渡申田地之事　天保五年十二月　8
13 本物返シ譲リ渡シ証文之事　天保六未年九月　9
14 譲リ渡申田地之事　天保五年申十二月　10
15 譲リ渡申田地之事　天保九戌年七月　10
16 譲リ渡シ申畑地之事　天保九戌年九月　11

17 譲リ渡申煎屋一札之事　天保十二丑十一月　12
18 譲リ渡シ申証文之事　天保十二丑年十二月　12
19 譲リ渡申煎屋一札之事　天保十四年外十一月　13
20 譲リ渡申証文之事　弘化二巳年二月　14
21 譲リ渡シ畑地証文之事　嘉永元申年八月　15
22 譲リ渡シ申証文之事　嘉永元申年十一月　16
23 譲渡申証文之事　文久三年亥二月　17
24 譲リ渡畑地証文之事　慶應三夘十一月　18
25 質物証文之事　文化十四年丑三月　19
26 差入申一札之事（近衛様御役人御金方）　慶應三年丁夘八月　20
27 差入一札之事（伊丹町新太郎）　慶應三年丁夘八月　21
28 差入申一札之事（酒造大行事）　慶應三年丁夘八月　22
29 酒預リ之事　申六月十五日　22
30 臨時御用ニ付其許自製銘酒献上　23
31 酒造遣道具（明細）　文久弐戌十月　23
32 譲リ渡証文之事（樽屋職大仲間組合増減株）　文久三亥年八月　26
33 差入申一札ノ事　元治元年子六月　27
34 預リ申一札之事　慶應元丑十一月　28
35 差入書附之事　慶應弐年寅七月　28
36 賣附書（酒造古藏）　申九月　29

37 覚　銀三貫目（酒造古藏）　申九月廿一日　29
38 煎株譲リ渡シ申事　文化六年巳十二月　30
39 年季奉公請状之事　壬嘉永五子五月　30
40 借家証文之事　年号何月　31
41 渡海船譲リ渡証文之事　嘉永元年申十二月　32
42 廻船加入証文之事　嘉永六年丑十月　32
43 差入申証文之事　嘉永元年申十二月　33
44 毛馬屋船割合等勘定書　申二月七日　33
45 御収納米買請証文之事　安政六年未十二月　35
46 預リ申証文之事　萬延元年申九月　36
47 預リ申金子之事　萬延元年申十一月　36
48 預リ申金子之事　萬延元年申十二月　37
49 覚　（かし銀）　巳十二月　37
50 覚　銀拾弐〆目　安政五午十一月晦日　38
51 覚　金三拾四両　申三月十七日　39
52 覚　金七拾両　午五月廿一日　40
53 覚　金四拾壱両壱朱　十一月八日　40
54 覚　銀弐〆八百八匁　41
55 覚　銀三百拾弐匁六分七厘　41
56 一札之事　巳四月廿六日　42

57 覚　（衣裳類三拾四品渡書）　午四月　42
58 なかた様　なにわや内　43
59 預り申銀子之事　文化七年午十一月　44
60 年賦銀連印証文之事　文化九申年五月　45
61 預り申銀子之事　文化十五寅四月　46
62 銀子預り申一札之事　文政六未四月　46
63 覚　（魚屋市郎兵衛）　文政二年卯九月二十七日　47
64 預り申銀子之事　文政二年卯十二月　47
65 預り申金子之事　文政三年庚辰十二月　48
66 連印ヲ以借用申銀子之事　文政九年戌二月　48
67 預り申銀子之事　文政五年午四月　49
68 預り申銀子之事　午文政五年六月　49
69 預り申銀子之事　文政五年午十二月　50
70 預り申銀子之事　文政六年未三月　50
71 覚　（中ノ村吉三郎）　文政六未年七月　51
72 預り申銀子之事　文政九年戌九月吉日　51
73 連印借用証文事　文政十年亥極月　52
74 借用申一札之事　文政拾一年子七月　日　52
75 預り申銀子之事　文政十二年丑十一月　53
76 年賦証文之事　文政十三年寅七月　53

77 銀子預り申証文之事 天保十四年卯十二月 54
78 預り申銀子証文之事 天保七年申三月 54
79 連印預り金子之事 天保九年戌十二月 55
80 預り申銀子之事 弘化四未年十二月 55
81 借用申金子之事 嘉永三年戌七月廿一日 56
82 預り申証文之事 嘉永六丑年三月 56
83 預り申金子之事 嘉永六丑年六月 57
84 銀子借用年賦証文之事 安政六年未十二月 57
85 預り申銀子之事 安政六未十二月 58
86 銀子借用年賦証文之事 文久三亥年九月 58
87 預り申金子之事 慶應四年辰七月 59
88 借用申一札之事 寅正月 59
89 覚 （金三百両） 卯十一月十一日 60
90 預り申銀子之事 酉三月 60

【明　治】

1 質物差入申証文之事 明治三午七月 61
2 譲渡証文之事 明治三午九月 62
3 譲リ渡シ証文之事 明治三年午閏十月 63
4 譲リ渡シ証文之事 明治四年未三月 65

5 本物返シ畑地譲リ渡証文之事 明治四年未六月 66
6 賣渡申証券 明治八年亥二月 67
7 畑地賣渡シ証券 明治十六年一月 68
8 建家賣渡証券 明治十年丑一月 69
9 田地賣渡シ証券 明治十六年一月 70
10 地所賣渡証券 明治十六年三月 71
11 建家宅地賣渡シ証券 明治十八年四月 72
12 田地賣渡シ証券 明治十六年十二月 73
13 賣渡シ証文之事 明治十七年四月 74
14 契約証書 明治廿五年五月 75
15 覚 午十月十四日 76
16 借用証文之事 明治二巳十月 77
17 覚 巳十月 77
18 出精証文之事 明治二巳十二月 78
19 借用申金子之事（爲替取扱一札） 明治六酉三月 78
20 借用証券 伊丹様掛ケ証文 明治十一年寅八月 80
21 金円借用証券 明治弐拾年一月 81
22 証　券 巳二月 81
23 口　上 廿六日 82
24 貸家借請証券 明治九年八月 82

25 差入申引請証書 明治九年十日 83
26 借家引請一札之事 明治九年十一月 84
27 家受一札之事 明治十四年十一月 84
28 地所借受証文之事 明治十五年三月 85
29 宅地借請証文之事 明治十七年五月 85
30 証文事 明治十八年七月 86
31 借家証文之事 明治十九年三月 86
32 貸家借請証書 明治十九年九月 87
33 貸家借受証 明治廿年亥八月 87
34 譲リ渡申証文之事 明治五年申十一月 88
35 証（酒造藏） 明治十四年十一月 89
36 証（大祝印酒） 明治十六年十一月 90
37 酒造薪請合証 明治十八年七月 90
38 水車搗御預リ米請合証 明治十九年十二月 91
39 金子借用証 明治廿五年第三月 91
40 小作証書 明治廿五年第三月 92
41 爲念約条証書 明治廿五年第三月 93
42 記（〆七拾六銭弐厘） 94
43 覚 銀請取（七貫九十二匁八分五厘） 明治元年辰年十二月 94
44 覚 雑弐通 十二月廿二日 95

軸物

1　売附覚　日々喜一印酒百太　明治十八年十二月

2　山林原野大表(改正反別地価地租一覧)　明治十四年三月

近

世

覚

一、銀　五百匁　　廣□殿

右之通慥請取候

十二月廿六日

茶屋定右衛門殿　　木屋清右衛門　㊞

覚

一、銀弐百拾五匁

右之通慥ニ請取申候も

重而差引可致候　已上

正月廿七日　　木屋清右衛門　㊞

茶屋定右衛門殿

質入証文之事

字源右衛門地

一、濱屋舗　壱畝㊞三歩　分米壱斗壱升

四至東道之祐地限　西平治郎地限

南道限り　　北道限り

右地西之内

一、建家㊞壱ケ所

但惣瓦葺二階造り門外仕付廻り釘付切不残

敷鴨居二階板ねた板其外〆り壱式建添加共

不残有姿ノ儘井戸壱ケ所雪陰壱ケ所共

右之家屋敷共我等所持候所、此度要用依有之、質物差入、銀弐㊞貫目慥請取借用申候所實正也、然ル上は月六㊞朱加利足来ル巳七月限元利共無相違返済可致候、万一返銀相滞候ハ、右之質物致帳切無異儀相渡可申候、尤御年貢村方諸役等は、此方ゟ相立可申候、爲後日質入証文依而如件

天保三辰年六月　　質主二茶屋村

木屋吉左門死跡

引請人兄

木屋清右衛門　㊞
請人同村
木屋文左衛門　㊞

茶屋定左衛門殿

右之通相違無之奥印依而如件

（包紙）
「天保九　戊十二月
よし嶋新田質物証文入　弥三
並ニ勘定出入　貳通入」

畑地小作証文之事

よし嶋本歩壱反歩之内
一、下々畑　壱反歩　分米三斗
右畑地本紙証文ヲ以質物ニ相渡候処我等小作致シ御年貢御公役等相勤候上、年々作徳米代として、壱ケ年ニ銀弐百五拾目つゝ無滞急度相渡可申候、万一作徳米代銀壱ケ年ニ而も相滞候ハ、右畑地御引上ケ被下候とも、少シも申分無御座候、爲後日畑地小作証文仍而如件

天保九年
戊十二月

小作人
孫三右衛門㊞
受人
孫三左衛門㊞

平次郎　殿

質物ニ差入銀子借用証文之事

一、建家　壱ケ所　　梁行
　　桁行
　　但瓦葺四方ニ外家おろし付有之釘打物
　　品不残当時有姿儘

右建家我等所持ニ御座候処、此度無拠要用之儀ニ付質物ニ差入銀子百弐拾目慥ニ請取借用申候処実正也、然上ハ壱ケ月銀壱歩之利足加へ来ル十二月五日限リ無滞元利とも急度返済可仕候、万一相滞候ハ、右質物貴殿方へ御引取御支配被成可被下候其時一言之子細申間敷無異儀相渡シ可申候、爲後日質物質入銀子借用証文仍而如件

天保九戌六月　　質入主　　太兵衛㊞
　　受人　　㊞㊞㊞
　　重左衛門㊞

治兵衛殿

前書之通相違無御座候ニ付奥印仕候　已上

庄屋　嘉平次㊞

畑地質入銀子借用証文之事

字㊞よし嶋本歩壱反五畝歩之内

一、下々畑壱反歩　　分米

右畑地我等所持ニ御座候処、此度無拠要用之儀ニ付、質物ニ差入銀㊞弐貫五百目慥請取借用申候処実正也、然上は其許御入用次第急度返済可申候、万一相滞候ハ右質物帳切いたシ、御勝手次第御支配可被成候、其時一言之子細申間敷候、尤右質物ニ付御年貢ノ来進等一切無御座候、

爲後日畑地質物証文仍而如件

天保九年
戌十二月　　質入主　　弥三右衛門㊞
　　請人　　弥三左衛門㊞

平治郎殿

前書之通相違無御座候付奥印仕リ候已上

庄屋
喜㊞平㊞㊞
次㊞

（包紙）
「天保十四年卯三月　　弥三右衛門証文入　壱」

本物返シ畑地証文之事

字葭嶋新田

一㊞下々畑壱反五畝歩　　分米四斗五升

同所　　分米壱斗弐升

一、下々畑四畝歩

右之畑地我等所持ニ御座候処、此度無拠要用之儀ニ付当卯年ゟ来ル子年迄拾ケ年之間、貴殿え差入銀四貫目㊞㊞ニ請取借用申候処実正也、然ル上ハ御年貢諸懸合等貴殿ゟ相勤可被成候、尤年中之間右銀子調達いたシ候ハヽ、右畑地御戻シ可被下候約定御座候、萬一年限ニ相成虚言等申外方え譲リ替等一切不可仕候、右銀子年限相成調達難相成候ハ貴殿え引取可然様、御支配可被下候、其時一言之子細申間敷候、爲後日之本物返シ畑地差入借用証文依而如件

天保拾四卯年　　三月　　質入主　弥三右衛門㊞

請人　弥三左衛門㊞

永田屋
平次郎殿

前書之通相違無御座候ニ付奥印可仕候

庄屋　庄左衛門　㊞

（包紙）

「　煎屋仲間証文入　　（新五郎　善左衛門　角右衛門）」

永田屋　平治郎殿

角右衛門　㊞

質物差入銀子借用証文之事

一、煎屋㊞株　壱ツ　但先規仕来り

五十六軒之内

右ハ煎屋仲間入用銀御座候ニ付、無拠我等煎屋株質物ニ差入、銀壱貫目㊞ニ請ケ取借用申処実正明白也、然ル上者壱ケ月ニ銀拾匁ツヽ利足加来九月限ニ、元利共無滞急度返済可仕候、万一相滞儀有之候ハ、右質物貴殿方へ御引取御支配ニ成被下候、其時一言之子細申間敷無異儀相渡シ可申候、爲後日之質物差入銀子借用証文仍而如件

弘化弐　　質入主

巳年八月　　新五郎　㊞

請人年行司

喜左衛門　㊞

右同断

譲渡申畑地之事

字墓之前卯新田

一、下畑弐畝㊞弐拾五歩　分米弐斗弐升六合

右畑地我等所持ニ御座候処、此度無拠要用ノ儀ニ付代銀五拾㊞目譲渡申所実正也、然ル上は右畑地ニ付違乱妨申候は無御座候、万一差障申者有之候ハ請人罷出急度埒明可申候、爲後日畑地譲リ渡証文仍而如件

文化十一年
戊四月　譲渡主　傳兵衛㊞

請人　七郎右衛門㊞

宗兵衛殿

右之通相違無之候付致奥印候以上

庄屋
作右衛門㊞

（包紙）
「文化十一戊四月十四日　ヲトリマツ畑一ケ所
銀四百目　ハカノマエ同一ケ所
傳兵衛殿ゟ
譲リ受ケル」

譲渡申畑地之事

字をとり松弐筆

一、下々畑㊞四畝歩　分米弐斗四升

右畑地我等所持ニ御座候処、此度無拠要用之儀ニ付、代銀三㊞百五拾匁ニ譲渡申候所実正也、然ル上は右畑地ニ付違乱妨申者無御座候、万一差障申者有之候ハ、請人罷出急度埒明可申候、爲後日畑地譲リ渡証文仍而如件

文化十一年
戊四月　譲渡主　傳兵衛㊞

請人　七郎右衛門㊞

宗兵衛殿

右之通相違無之候ニ付致奥印候　以上

庄屋　作右衛門　㊞

売渡申家屋舗之事

新屋

一、屋舗　十歩　斗代三升八合三勺

一、同　十七歩　斗代六升六合

〆但シ壱役也

此地面ニ

瓦葺建家壱ケ所　表口四間

裏行　四間半

右家屋舗我等従前所持、此度要用在之ニ付、銀三百五拾目慥ニ請取売渡申所実正也、然ル上は右家屋舗ニ付、脇ゟ違乱妨申者無之候、萬一在之候ハ印形之者罷出急度埒明可申候、爲後日売渡シ証文仍而如件

磨屋

文政六年　売主　治兵衛

未三月

永田屋

善蔵殿

譲り渡申田地之事

字休弥壱反壱畝拾七歩之内源治郎庄五郎へわける

一、下田㊞三畝三歩半　分米　三斗四升三合

同所

一、下々田㊞七畝拾八歩　分米　六斗八合

〆

右之田地我等所持ニ御座候処、此度御年貢銀ニ差詰り代銀壱貫弐拾五目ニ㊞譲り渡シ申処実正明白也、然ル上は外方ニ差構無御座候、万一脇ゟ違乱妨申もの出来有之候ハヽ、印形之もの罷出急度埒明其元え少シも御難かけ申間敷候、爲後日田地譲り渡シ証文仍而如件

田地譲り主　利右衛門㊞

天保五年午十二月

請人　六右衛門㊞

右同断　善左衛門㊞

（押紙）

「平治㊞郎殿」　㊞㊞㊞㊞

前書之通り相㊞違無之候付奥印仕候已上

庄屋　喜平治㊞

（包紙）

「天保五年十二月吉日

田買入証文入　利右衛門分」

喜平次㊞

本物返シ譲リ渡シ証文之事

一、下田㊞壱反八歩　分米壱石弐斗弐升九合

一、下々畑壱㊞畝拾六歩　分米九升弐合

〆

右田畑我等所持ニ御座候処、此度無拠要用之儀ニ付、代銀八㊞百目㊞譲リ渡申処実正也、然ル上は外方ニ差構無御座候、尤当年ゟ来ル寅年迄八ケ年之内ニ右元銀返済いたし調達仕候得ハ、右田畑御戻し被成可被下候約定ニ御座候、若年限相過候ハヽ違背申間敷候、万一右田畑ニ付違乱妨申もの出来候ハヽ印形ノもの罷出急度埒其元御難懸申間敷候、爲後日田畑譲リ本物返シ証文仍而如件

天保六未年　譲リ主　清三郎㊞

九月　受人　利助㊞㊞㊞

平治郎殿

前書之通相違無御座候ニ付奥印仕候　已上

庄屋

（包紙）
「天保七申十二月十四日　岡田屋
畑ケ買受証文入　幸左門分」

譲り渡申田地之事

字なや後
一、下々畑㊞　壱畝弐歩　分米六升四合
右畑地我等所持ニ御座候処、此度無拠要用之儀ニ付代銀四百目譲㊞リ渡申処実正明白也、然ル上は右畑地ニ付差構申もの無御座候、万一脇ゟ違乱妨申もの出来有之候ハ、印形之もの罷出急度埒明其元え少シも御難かけ申間敷候、
爲後日畑地譲リ渡証文仍而如件

天保五申年　譲リ主
十二月　幸左衛門㊞
請人
冨五郎㊞
庄屋
喜平次㊞

永田屋　平治郎殿

（包紙）
「天保九戌年七月
田地証文　善左衛門ヨリ
高井の坪　譲リ受」

譲り渡申田地之事

字高井
一、㊞中田　九畝弐拾九歩　分米壱石弐斗九升六合
同所
一、㊞中田　壱反壱畝廿弐歩分米壱石五斗弐升五合
合弐石八斗弐升壱合
右之田地我等所持ニ御座候処、此度無拠要用之儀ニ付代銀㊞壱貫五百目譲㊞リ渡申処実正明白也、然ル上は右田地ニ付脇ゟ差構申もの無御座候、万一違乱妨申もの有之候ハ、印形之者罷出急度埒明其元御難相かけ申間敷候、
爲後日田地譲リ渡証文仍而如件

天保九戌年　譲リ主
七月　善左衛門㊞
受人

重右衛門㊞

庄　屋

喜平次　㊞

永田屋

平治郎殿

（包紙）

「畑買入証文入　　徳左衛門分

天保九戌九月　　」

譲リ渡シ申畑地之事

一、下畑　㊞　五畝拾弐歩　　分米四斗三升六合

右畑地我等所持ニ御座候処、此度無拠要用之儀ニ付代銀㊞壱貫弐百目譲渡シ申処実正明白也、然ル上は脇ゟ差構申もの毛頭無御座候、万一右田地ニ付違乱妨申もの有之候ハヽ印形ノもの罷出急度埒明其元へ少シも御難儀相掛申間敷候、爲後日田地譲リ渡証文仍而如件

天保九戌九月

譲リ主

徳左衛門㊞

請　人

太郎兵衛㊞

庄　屋

喜平治　㊞

平治郎殿

譲り渡申煎屋一札之事

一、煎屋壱軒分㊞　但五拾六軒之内

右之煎屋先規ゟ仕来リ渡世我等相稼候処、此度要用ニ付銀壱貫百三拾目㊞慥ニ請取譲渡申所実正也、然ル上は右煎屋ニ付外方ゟ故障ケ間敷義申者無御座候、萬一差構等申候ハヽ請人罷出其元殿え少しも御難義相掛申間敷候、

爲後日之譲渡一札仍而如件

天保十二年
丑十一月　譲リ主　八左衛門㊞
請　人　八郎太夫㊞
年行司　新五郎㊞
永田屋　平治郎殿

此煎株伊勢請中之分
ふりかへ致候八左衛門ゟ
譲リ受申候

（包紙）
「天保十二丑十二月
証文入　なたや太兵衛分」

譲り渡シ申証文之事

一、㊞字□新田屋舗
一、㊞下田　弐畝弐拾五歩　分米弐斗九升三合
一、㊞建家　壱ケ所　梁行　三間
桁行　五間半
但シ表雨仕廻リ付

右之屋舗建家我等所持ニ御座候処此度勝手ニ付、其元え譲リ渡シ、代㊞銀壱貫四百七拾五匁慥ニ請取申所実正也、然上は御年貢諸懸リ合等貴殿ゟ相勤可被成候、尤右家屋舗ニ付脇ゟ違乱妨申者毛頭無御座候、万一故障等有之候ハヽ印形者罷出急度埒明貴殿え少シも御苦労相掛申間敷候、

爲後日家屋舗譲リ渡シ一札証文仍而如件

天保十二丑年
十二月　譲リ主　太兵衛㊞

受人
庄八㊞
受人
善助㊞

油屋
藤左衛門殿

前書之通相違無御座候ニ付奥印可仕候
庄屋　庄左衛門㊞

（包紙）
「天保十四卯十一月切之ル
煎株証文入　魚屋　市郎兵衛分
但シ委細書は萬覚ニ有ル」

譲リ渡申煎屋一札之事

一、㊞煎屋壱軒分　但シ五拾六軒之内
右の煎㊞屋先規ゟ渡世仕来相稼候処、此度要用ニ付
銀壱貫目慥ニ㊞請取譲渡申所実正也、然ル上は右煎
屋ニ付外ゟ故障ケ間敷義申者無御座候、万一差構
等申者有之候得は請人罷出其元殿へ少シも難義相
掛ケ申間敷候、爲後日譲リ渡一札仍而如件

天保十四年　譲リ主
卯十一月　市郎兵衛㊞
受人
仲右衛門㊞
年行司
新五郎㊞

永田屋
平治郎殿

（付箋）
「一、此煎株一件之義は
萬覚帳ニくわしく、
書印シ申シ候、以上　」

（包紙）
「弘化二年巳三月
浜蔵壱ケ所証文入　　塩徳ゟ」

譲リ渡申証文之事

一、土蔵㊞　壱ケ所　　梁行　三間
　　桁行　五間

但シ惣瓦葺並釘付品当時有姿儘

右之土蔵我等所持ニ御座候処、此度勝手ニ付譲リ渡シ代銀壱貫百五拾目㊞ニ請取申処実正明白也、然ル上は貴殿ゟ御勝手ニ御差配可被成候、尤右土蔵ニ付脇ゟ違乱妨申者毛頭無御座候、万一故障等ケ間敷儀申もの出来候ハヽ加判之者罷出急度埒明貴殿え少シも御苦労相懸申間敷候、爲後日之譲リ渡証文依而如件

譲リ主　　徳兵衛　㊞
請人　　惣五郎　㊞

弘化二巳年
二月

平治郎殿

前書之通相違無御座候ニ付奥印仕候　已上

庄屋　庄左衛門　㊞

（包紙）

「神楽新田事

七兵衛畑ケ証文入

嘉永元申八月　」

譲リ渡シ畑地証文之事

字永井神新田与唱壱反六畝廿歩之内

一、下々畑㊞　八畝歩　分米壱斗六升七合

右之畑地之儀ハ当村神田ニ御座候処、私永久支配仕村方え御年貢無遅滞相納来リ候処此度無拠儀ニ付譲リ渡シ爲鍬代㊞銀三百八拾七匁五分慥㊞ニ請取申処実正ニ御座候、然ル上は御年貢諸懸リ合等、貴殿㊞ゟ御勤可被成候、右畑㊞地ニ付脇㊞ゟ妨申者毛頭無御座候、若故障ケ間敷義申もの出来候らへハ、請人罷出急度埒明貴殿へ少シも御難儀相懸申間敷候爲後日之畑地譲リ渡シ証文仍而如件

嘉永元年　　譲リ渡シ主

申八月　　七　兵　衛㊞

請人

永田屋
平治郎殿

栄五郎㊞

（包紙）
「嘉永元申年十一月
森源太郎借家買受ニ付証文入」

譲リ渡シ申証文之事

一、㊞建家　壱ケ所　　梁行弐間
　　桁行三間
　但惣葺釘附戸障子当時有姿之儘
一、㊞雪隠　壱ケ所　　半間
　　壱間

右之建家我等所持ニ御座候処、此度無拠要用之儀ニ付譲リ渡シ代銀弐百目㊞也ニ請取申処実正也、然ル上は御年貢諸役等貴殿ゟ御勤可被成候、右建家ニ付脇ゟ違乱妨申者毛頭無御座候、万一故障ケ間敷儀申もの出来候得ハ、請人罷出急度埒明貴殿へ少シも御難儀相懸申間敷候、爲後日譲リ渡シ証文仍而如件

嘉永元申年　　譲リ主森村
十一月　　源太郎㊞
　　請人

永田屋
平治郎殿

伊太郎 ㊞

（付箋）
「釜久屋敷証文　酒造中分」

譲渡申証文之事

一、㊞屋㊞舗　三畝五歩　分米三斗六升七合
一、㊞建㊞家　壱ケ所　梁行　四間
　　但惣瓦ふき也　桁行　六間半
一、㊞納㊞屋　壱ケ所　梁行　壱間半
　　但惣瓦ふき也　桁行　弐間
一、井戸　壱ケ所　一、雪隠　壱ケ所
一、たゝみ　拾八丈　一、表障子　四枚
一、口間障子㊞　三㊞枚　一、戸襖　四枚
一、佛前襖　三枚　一、部屋座敷間襖四枚

〆

右之家屋敷納家諸道具我等所持ニ御座候処、此度無拠要用之儀ニ付譲渡礼銀㊞六貫目㊞慥ニ受取申処実正明白也、然ル上は御年貢其許殿ゟ御勤可被成候尤家屋敷納家諸道具ニ附、脇外ゟ違乱妨申者毛頭無之候、若故障等申者有之候ハヽ加印之者罷出急

度埒明其許殿へ少も御苦労相掛ケ申間敷候、爲後日建家屋敷譲渡証文依而如件

文久三年　　譲主

亥二月　　久三郎　㊞

㊞㊞

受人

弥右衛門㊞

酒造家中

前書之通相違無御座候ニ付奥印仕候　以上

年寄

仁左衛門㊞

（端裏書）

「踊松畑ケ証文　米三郎」

譲リ渡畑地証文之事

踊松年々四筆候

一、下々畑　五畝㊞拾歩　分米㊞三斗弐升

右之畑地我等所持ニ御座候処、此度無拠要用之儀ニ付譲渡礼銀弐貫三百目㊞ニ受取申処実正明白也然ル上は御年貢諸掛合等、貴殿ゟ御勤メ可被成候尤右畑地ニ付脇外ゟ違乱妨申者毛頭無御座候、若故障ケ間敷義申者出来候ハヽ印形之もの罷出急度埒明貴殿え少も御難儀相懸ケ申間敷候、爲後日譲渡畑地証文依而如件

慶応三年　　畑地譲リ主

卯十一月　　栄三郎　㊞

受人

作次郎　㊞

平次郎殿

前書之通相違無御座候ニ付奥印仕候以上

庄　屋　　久左衛門　㊞

（包紙）
「文化十四年丑三月
当酒造場建物不残
同酒造道具不残　　」
書入証文

質物証文之事

一、瓦葺酒造蔵　壱ケ所　　梁行五間
　　但シ惣二階附也　　桁行拾間半
一、同　　壱ケ所　　梁行五間
　　但シ中二階付也　　桁行拾間半
一、同釜家　　壱ケ所　　梁行四間
　　桁行七間
一、同室さや　　壱ケ所　　梁行三間
　　桁行四間
一、同米蔵　　壱ケ所　　梁行三間
　　桁行八間
一、同旧家　　壱ケ所　　梁行四間
　　桁行五間
一、同居室　　壱ケ所　　梁行四間
　　桁行六間
　　但シ南北ニ片風付
〆七ケ所　地所は同村網屋茂左衛ゟ借地也
　　但シ酒造諸道具不残別紙帳面之通
右之通我等所持ニ有之処、此度質物ニ差入金三百両也㊞㊞㊞㊞ニ受取預リ申候処実正也、然ル上は年七朱之利㊞足相加え来ル寅三月限リ、元利無滞急度返金可申候、万一限月ニ至返金相滞儀候ハヽ右質物致帳切無異儀相渡申候、勿論御年貢其外諸掛リ諸役共此方ゟ相勤可申候、爲後日質物差入金子預リ証文依而如件
文化十四丑年三月
永田屋
質主　平次郎　㊞
幸保屋
受人　幸　助　㊞
米屋房太郎　殿
前書之通相違無御座候付致奥印候以上
庄屋
作右衛門　㊞

宗兵衛
酒造大行事

近衛様御金方
御役人中様

差入申一札之事

鈴木町御代官所御支配

一、籾買入酒造株　千七百廿四石七斗

御鑑札壱枚

此御冥加銀七十四匁壱分六厘

右者伊丹町新太郎所持酒造仕来り罷在候処、当卯九月ゟ来ル辰八月迄壱ケ年限我等方替酒造相稼可申相対ニ而譲り請候処相違無御座候、依之御支配御役所え名前切替御願申上候ニ付、右冥加銀我等ゟ無相違上納可仕候、然ル所元稼人新太郎株来石高当時其御殿様御差配酒造稼石之義ニ付、我等酒造中如何様之義出来候共、右稼石ニ相抱不申様取斗仕限月無相違御差図之名前ニ譲り戻シ可仕候、就は自他障ケ間敷義一切無御座候、爲後日差入申一札依而如件

慶応三年
丁卯八月

深江村
善蔵
請人

酒造大行事
茂　兵　衛

差入一札之事

鈴木町御代官所御支配

一、籾買入酒造稼石千七百廿四石七斗　御鑑札
壱枚

此御冥加銀七十四匁壱分六厘

右者其許殿所持ニ御座候処、安政四年巳年壱ケ年造リ相稼候、相対ヲ以譲リ請候得共、猶亦勝手ニ付外年ゟ来ル辰年八月迄壱ケ年之間譲リ請候義ニ付、限月ニ至候ハヽ無異儀急度譲リ戻シ可仕候、其節少シも故障申間敷、爲其差入申連印一札依而如件

深江村
慶応三年　善　蔵
丁卯八月　請　人
宗兵衛

伊丹町
新太郎殿

前書ノ通稼石高相違無之壱ケ年譲リ請候義ニ付、他え引当切替等決而爲致申間敷候依而奥印如件

差入申一札之事

鈴木町御代官所御支配

一、籾買入酒造稼石　　御鑑札壱枚

千七百廿四石七斗

此冥加銀七拾四匁壱分六厘

右ハ伊丹町新太郎殿所持酒造稼仕来リ罷在候処、当卯九月ゟ来ル辰八月迄壱ケ年限リ、我等方ニ而酒造相稼可申相対ニ而譲リ請候処相違無御座候、右酒造中如何体之義出来候共、其許殿へ少シも御迷惑相掛ケ申間敷候、前文間違等有之候節は我等印形之者罷在候急度申開取斗可仕候、爲其依而如件

慶応三年　　深江村

丁卯八月　　善　蔵

請　人

宗　平

酒造大行事

青木村

茂兵衛殿

酒預リ之事

一、桶酒㊞弐本也　但シ壱本ニ付

凡四拾太入

右之通リ当晦迄、慥ニ㊞預リ置申候、以上

申六月十五日　　磯田屋

太郎兵衛㊞

永田屋平治郎様

（包紙）
「　永田平兵衛様　」

臨時□御用ニ付、其許手製銘酒弐樽献上之遂披露候処、奇特之至御満足被思召候、則被預御印書不盡

御用番
岡嶋頼母
花押

八月十三日

攝州
正壽寺殿
門徒中

酒造遺道具

㊞一、大桶三酟　拾壱本
但シ蓋付
㊞一、六尺桶　壱本
右同断
㊞一、五尺五寸桶　壱本
右同断
㊞一、五尺桶　壱本
右同断
㊞一、四尺五寸桶　拾三本
右同断
㊞一、三尺桶　弐拾三本
㊞一、水桶　三本
㊞一、漬桶　弐本
㊞一、酟卸桶　拾五本

㊞一、半切　百拾枚
㊞一、爲桶　上中拾ヲ
㊞一、荷ない　三荷
㊞一、水はず　壱本
㊞一、ヌクメ樽　六本
㊞一、狐桶　弐ツ
㊞一、水桝　壱ツ
㊞一、洗場米洗桶　弐ツ
㊞一、新セイロウ　壱ツ
但シ台付
㊞一、どんぶり　弐ツ

㊞一、洗場向ウ　壱ツ
セいろう
㊞一、甑桶　壱本
㊞一、酝こしき　壱本
㊞一、かまわく　壱組
但シ板共
㊞一、こしき文治　壱本
㊞一、かき桶　四ツ
㊞一、こしき取　壱ツ
㊞一、糀ぶた　弐百八拾枚
㊞一、大杓　四本
㊞一、米舟　壱艘

㊞一、大かま　壱ツ
但シ八太入
㊞一、脇かま　壱ツ
㊞一、重のう　壱ツ
㊞一、又ぶり　壱ツ
㊞一、火かき　壱ツ
㊞一、ムロ文治　壱本
㊞一、三尺ふた　弐面
㊞一、酝卸ふた　三面
㊞一、三尺かい　拾弐本
㊞一、酝卸がい　六本

㊞一、棒かい　拾本
㊞一、壱升杓　三本
㊞一、上戸　壱ツ
㊞一、詰半切　壱枚
㊞一、ヌケ　壱ツ
㊞一、酒船　弐艘
但拾六石拾四石
㊞一、同かさ　弐ツ
㊞一、備前杵　壱ツ
㊞一、袋かけ　壱ツ
㊞一、半役　壱ツ

㊞一、桶はしご　弐挺

㊞一、長はしご　壱挺

㊞一、手こ　壱丁

㊞一、タツりん木　有姿儘

㊞一、やつくわん　壱ツ

㊞一、ムロ　壱式

㊞一、井戸ツルベ　弐ツ

〆

右之通相違無御座候　以上

永田屋

文久弐　平治郎　㊞

戌十月

（付箋）
「青木村
樽屋重兵衛殿証文　」

譲り渡証文之事

一、樽屋職大仲間組合増減株御冥加銀拾匁四分右之樽屋職大仲間組合増減株我等所持ニ而渡世仕来罷在候処、此度要用之儀ニ付礼金拾㊞両㊞㊞㊞ニ請取譲渡申候所実正也、然ル上は御冥加銀并仲間入用其許殿ゟ御勤可被成候、尤樽屋職ニ付脇外ゟ違乱妨申者毛頭無御座候、万一故障ケ間敷儀申者出来候ハヽ加印之者罷出急度埒明其許殿え少シも御苦労相掛ケ申間敷候、爲後日樽職譲り渡証文依而如件

樽屋職譲リ主　青木村　重兵衛　㊞

文久三亥年　八月　同村右請人　藤助　㊞

年行司

深江村
平次郎殿

嘉助㊞

差入申一札ノ事

一、大仲間組合樽屋職増減株
我等所持ニ御座候処、去ル文久三亥年八月本証ヲ以其許殿へ譲渡シ申候処実正也、然ル処此度大仲間組合へ帳切替之儀ニ付彼是申立候処、赤穂屋作蔵殿、岡田屋弥右衛門殿右両人取扱被致、則儀金与シ而金四両三分慥ニ請取相対行届き出入相済申候間、此後右一件ニ付聊故障申分毛頭無御座候、依之爲念差入一札依而如件

元治元年
子六月　　増減株譲リ主
青木村
重　兵　衛㊞

永田屋
平次郎殿

預り申一札之事

一、夏囲桶㊞　拾本
一、大釜　壱枚　但八駄片馬入
一、脇釜　壱枚　但五駄入
一、五嶋薪　四百掛ケ但上枯
〆　四品

右之四品其許殿所持ニ御座候所、此度入用之儀ニ付借用申候処実正也、然ル上は其許殿御入用之節ハ何時ニ而も返済可申候、爲後念預り申証札依而如件

慶応元
丑十一月

預り主　柏屋
弥三郎　㊞
生頼屋
右請人　弥兵衛　㊞

永田屋平治郎殿

差入申書附之事

一、其許殿所持酒造蔵建場所御手当テ之地面之内え我々等勝手ニ付、此度御契申相対ヲ以網納家壱構建家致候処実正也、然ル上は右地面其許殿御入用之節ハ何時成共無相違地面明ケ相渡シ可申候、爲後日連印形ヲ以差入申書附依而如件

慶応弐年
寅七月

木綿屋
網納家建主　茂兵衛㊞
浜屋
右同断　辰蔵㊞
右同断　弥三左衛門㊞

永田屋平治郎殿

売附書

一、酒蔵古蔵　壱軒　瓦葺
　　并ニ角家藁葺共
　　柱根石不残
　　桶船場小道具当時有合セ之道具不残、
　　尤釜は此方へ残置、井戸も残シ置相対
　　此
　　代銀三貫目
　　右之通売附申候　以上
　　申九月　　阿ミや　　茂左衛門㊞
　　〃　　善　蔵㊞
　　永田屋
　　平治郎殿

（包紙）
「申九月
　　古蔵買出入　　茂左衛門ゟ取分
　　入銀受取入」

請取日

一、銀三貫目　　酒造古蔵
　　代
　　内金五両
　　代三百十八匁三分五厘
　　差引〆弐〆六百八拾壱匁六分五厘
　　不足かシ
　　申九月廿一日　　茂左衛門㊞
　　平治郎殿

煎株譲り渡シ申事

右之煎株我等㊞所持ニ御座候処此度無拠儀ニ付代銀三百目㊞ニ譲リ渡シ申所実正也

然ル上ハ右株㊞ニ付申分御座候得ハ、我等罷出急度埒明可申候、爲後日仍而如件

文化六年　　譲リ主
巳十二月　　平五郎　㊞
受人西宮千足
忠治郎　㊞

八郎兵衛殿

右之通相違無御座候ニ付奥印仕候以上

年行司
新　兵　衛　㊞
同
八左衛門　㊞

年季奉公人請状之事

一、私シ忰重吉ト申者當年十三才ニ相成当子年ゟ来ル申年迄九ケ年之間年季奉公相極メ則判料金弐歩慥ニ受取申候所実正也

一、従御公儀様被爲仰出御法度之趣堅ク爲相守可申候、萬一度取逃等仕候得は、早速罷出シ本人ハ不及申持出候所品々残不相立其元え少シも御難儀相懸ケ申間敷候、則頓座頓病不及申聊之病気ニ而も我等方え引取養生爲致可申候、若亦年季之内御気ニ入不申候へは御勝手次第御暇御遣可被下、其如何様之六ケ敷儀出来候共、我等罷出急度埒明其許え御難儀相懸ケ申間敷候、爲後日之奉公人受状依而如件

壬嘉永五年　　奉公人親
子五月　　攝州菟原郡打出村
源太郎　㊞
請人
忠　助　㊞

長兵衛殿

借家請証文之事

一、貴殿所持之借家此度要用之儀ニ付連印ヲ以我々等借請申候処実正也、然ル上家賃之儀ハ壱ケ月ニ金弐歩宛毎月晦日限リ無相違急度相渡可申候、尤右借家御入用之節は、何時成共家明渡可申候、其節故障ケ間敷儀一切申間敷候事

一、御公儀様御法度之儀ハ不及申御趣意趣堅相守可申候、勿論博奕賭之諸勝負事都而何ニ不寄御法度之趣急度相守可申候、惣而貴殿借家ニ罷居候内何様之六ツケ敷出来候共、印形之者急度引請聊御損難相掛ケ申間敷候、爲後日借家請証文依而如件

年号
何月

借主　誰

（包紙）
「八左衛門
船証文入　」

渡海船譲り渡証文之事

一、弐拾弐石積渡海船壱艘㊞
御鑑札久兵衛船名前船道具一式乗出シ有姿儘
右之渡海船我等年来支配致候処、此度右船頼母子
一条ニ付其元殿え譲リ㊞渡申所実正也、然ル上は頼
母子別紙帳面之通、御働可被下候、尤満会ニ相成
候節は右船御戻シ可被下候、満会迄之掛銀手当出
来候ハヽ何時にても御戻シ可被下候、爲後日渡海
船譲リ渡証文仍而如件

嘉永元年　　譲リ主
申十二月　　八左衛門㊞
証　人
惣五郎　㊞

永田屋平次郎殿

廻船加入証文之事

一、千五百石積　明徳丸徳兵衛乗
但シ諸道具乗出シ儘
代銀七拾五貫四百拾弐匁弐分三厘也
右之廻船え三厘方御加入被成下則銀弐貫弐百六拾弐
匁三分六厘慥ニ請取申候所実正也、然ル上は毎年十
二月限リ徳用勘定御割賦可仕候、爲後日廻船加入証
文依而如件

嘉永六年
丑十月　　永田屋平治郎

岸田屋仁兵衛殿

差入申証文之事

一、弐拾弐石積渡海船　壱艘　㊞

御鑑札久平衛名前船道具一式乗出シ

有姿之儘

右之渡海船其元殿所持ニ御座候処、此度相対ヲ以壱ケ月ニ銀四拾匁宛ニ而借㊞請申候、然ル上ハ御運上銀并諸掛リハ不及申道具等ハ此方ゟ差入申候、爲念渡海船借請一札仍而如件

嘉永元年　　借請人

申十二月　　惣　吉　㊞

請　人

喜三郎　㊞

永田屋平次郎殿

「申とし

毛馬屋市左衛門船割合

等之勘定書入　」

一、三拾五〆百拾弐匁　　〆　拾建分

八分二厘

一、壱〆三百廿四匁　　大工我等

壱分壱厘　　かしや

かさりや

たるや

いろいろ

新橋船

一、八百九拾五匁　　一艘

五分一厘　　右古売代

一、百三拾匁

差引七百六拾五匁

五分一厘

一、弐貫弐百五拾四分　　柱作事

九分六厘

三口
〆四〆三百四十四匁
六分五厘
外ニ
一、五百三拾五匁　大礎壱頭
八分八厘
一、五〆六百四十九匁　舟縄遣
六分九厘　差□いろいろ
〆拾貫五百廿九匁
八分二厘
差引弐拾四〆五百八十三匁　徳用
内訳
一、三百三十匁弐分八厘　手一取
〆
一、百五拾六匁二分入　古船壱代
十弐〆五百匁
午とし徳用
一、三十七匁三分二厘
〆百九十三匁六分四厘
一、廿四〆五百八十三匁　徳用
壱厘弐毛五才

此割三百七匁二分八厘
〆五百匁九分二厘
右割方
一、百六十六匁九分七厘　平次郎
一、八十三匁四分八厘　西　寺田
一、八十三勿四分八厘　東　寺田
一、百六十六匁九分七厘　治左衛門
〆
右之通リ割合相成分、夫々御引合改請取可被下候
以上
申二月七日
覚
一、百六十六匁九分七厘　市郎兵衛徳用割
内へ
金弐両弐分弐朱
代百六拾三匁六分壱厘
又三匁三分六厘
〆

右改御請取可被下候　以上

申二月七日　　松田

永田屋平次郎様

御収納米買請証文之事

一、御収納米五拾石㊞也　但壱石ニ付百三拾壱匁がへ

代銀六貫五百五拾目㊞也

右は板橋與五左衛門様当未御収納米前書之直段ニ奉買請、御米不残慥ニ請取申候処実正ニ御座候、尤代銀之儀は、江戸表屋敷月御賄金御差立之節、何時ニ而も御沙汰㊞次第無遅滞急度上納可仕候、万一相滞義御座候ハヽ本人ニ不抱、請人之者ゟ相弁無滞急度上納可仕候、爲後日御収納米買請証文依而如件

安政六年　　永田屋

未十二月　　買請人　平治郎㊞

同

右請人　惣兵衛㊞

板橋様

御役人中

預り申証文之事

一、金弐拾両也　但相庭㊞

右之金子此度要用之儀ニ付、慥ニ請取預り申候処実正也、然ル上は月壱㊞分之利足相加え元利とも、来ル積切運賃銀之内ニ而御引取可被下候、爲後日預り証文依而如件

永田屋

萬延元年　　平治郎㊞

申九月

小西新右衛門殿

預り申金子之事

一、金弐拾五両也　但相庭㊞

右之金子要用之儀ニ付、慥ニ㊞請取預り申候処実正也、然ル上は月壱分之利足相加、来ル積切運賃銀之内ニ而返済可仕候、爲後日之預り申金子証文依而如件

萬延元　　永田屋

申十一月　　預り主　平治郎㊞

小西新右衛門殿

（付箋）

「廿五両代壱〆八百廿三匁弐分

此利七十弐匁九分四厘　」

預り申金子之事

一、金四拾五両也　但相庭

右之金子要用之儀ニ付、慥ニ請取預り申候処実正也、然ル上は月壱分之利足相加、来ル積切運賃銀之内ニ而御返済可仕候、万一御城米仕建ニ相成候ハヽ御前貸運賃銀ニ而返済可仕候、爲後日預り申金子証文依而如件

永田屋

萬延元　預り主　平次郎㊞

申十二月

小西新右衛門殿

（付箋）

「廿両代壱〆四百廿五匁

利足四十弐匁七分五厘

〆　」

覚

一、拾弐貫目　巳十二月元

かし銀

此利壱〆四百四十匁　巳十二月ゟ

〆　午十一月迄

〆十二ケ月

利足

内へ

一、金七拾両　午五月廿一日

七弐〇八匁　受取

代五〆四十五匁六分

此戻シ利三百弐匁　六月ゟ

七分三厘　十一月迄

〆　戻シ利

一、同七拾両　同十一月六日

七弐八八匁　受取

代五〆百壱匁六分

〆

差引弐〆九百九拾匁

○七厘

かし

右之通ニ相成候　已上

午十一月廿五日改

尼屋

永田屋平治郎殿

覚

一、銀拾弐匁目　　巳十二月元

かし分

此利壱匁四百四十匁　　巳十二月ゟ

午十一月迄

匁十二ケ月

利足

匁

内へ

一、金七拾両　　午五月廿一日

受取

七弐〇八匁

代五匁四十五匁六分

此戻シ利三百弐匁　　六月ゟ

十一月迄

七分三厘

匁六ケ月

戻シ利

一、同七拾両　　同十一月六日

受取

七弐八八匁

代五匁百壱匁六分

匁

差引弐〆九百九拾匁
〇七厘
内へ
一、壱〆弐百匁　当冬造り
源次郎分
かり賃
か徳分差引
一、金弐拾両　永平
七三八七匁　米三
代壱〆四百七十七匁　込取
四分
差引三百拾弐匁六分七厘
かし
午十一月晦日改
右之通不足ニ相成候以上
安政五午十一月晦日　尼与
永田屋平二郎様

覚
一、金三拾四両　米三当
但当月十八日渡り　手一枚
七五〇三かへ
又銀札五十五匁
但歩なし
右ハ浜地代銀残候内へ慥ニ受取預り置候、以上
申　御影村
三月十七日　庄屋
治郎太夫㊞
深江村
平次郎殿

覚

㊞一、金㊞七拾両也　米三斗

手差

相庭今日下リ相庭之通りニて

相定メ可申候

右之金預ケ銀之内へ慥ニ請取申候、以上

安政五年　ならや

午五月廿一日　久兵衛　㊞

永田屋

平次郎様

覚

一、金四拾壱両壱朱　差引〆

内

辰極月廿七日　入金拾両　手也

巳二月　入同七両　薪四拾掛

五月四日　入同弐両　札

廿日　入同五両　手

九月卅日　入同三両　手

十月朔日　入同五両　手

十月十一日　入同三両　札

差引〆　六両一朱

右之通御座候、以上

十一月八日　　松屋清右衛門　㊞

九日

一、四両菱代受取

永田屋平治郎様

九日

一、弐両壱朱受取申候

覚

一、銀三百拾弐匁六分七厘　先日勘定

内六拾匁　有候分

半月利分

差引　弐百五十弐匁六分七厘

一、弐〆八百八匁　元三百両口

巳十二月ゟ

午十二月迄

〆利足

合三〆六拾匁六分七厘

内

一、金四拾壱両　込取

七三八四匁

代三〆弐拾七匁四分四厘

差引〆三拾三匁二分三厘　かシ

覚

一、銀弐貫八百八匁　元金三百両

代廿一〆六百匁

巳十二月ゟ

午十二月迄

〆十三ケ月

利足

一札之事

一、当正月十二日出東京米屋房太郎様ゟ、金三百両也手形入請取書、灘利方ニ而紛失爲致候ニ付、弐重請取今般御願申置候処、御承知被下忝奉存候、然ル上は右請取書之儀ニ付、向後御迷惑相掛ケ申間敷候、爲後日念書一札如件

巳四月廿六日

江戸屋

平右衛門㊞

永田屋平治郎様

覚

一、つむきしま　わた入壱枚
一、ぬきもん　わた入壱枚
一、ぬきもん嶋　わた入壱枚
一、小もん　同断　壱枚
一、糸しま　同断　壱枚
一、小もん　同断　壱枚
一、ちゝふ小もん　下き　壱枚
一、いとしま　あわせ壱枚
一、ぬきもん嶋　一重物壱枚
一、小もん　一え物壱枚
一、ちゝめしま　〃　壱枚
一、もめんしま　〃　壱枚
一、小もん片びら　壱枚
一、片びら　壱枚
一、しす中や帯　壱筋
一、嶋片びら　壱枚
一、ごろ中や帯　壱筋
一、ぬきもん帯　壱筋

一、いとしま帯　壱筋
一、木綿しま帯　壱筋
一、目　帯　壱筋
一、紅こしばん　壱枚
一、小粉しばん　壱枚
一、まゑだり　三ツ
一、あさじばん　弐枚
一、足袋　弐足
一、ほそ帯　弐筋
一、たばこ入　壱ツ
一、かゝみ　壱面
一、くし箱　壱通リ
一、針りさし　壱ツ

午四月
右之品相渡候
〆品数三拾品
勘十郎殿

（端裏）
「なかた様　内
かしこ　」

一寸しめし申候、わたくしさくじつ御目にかゝり度存候へども、なにふん寺のおとこしむかひニ参り候て、誠にいそぎ候ゆへ、仙助事に頼おき、すぐさまにかへり、大きにしつれいいたし、御ゆるしまし、一寸御ことわりも申候、いりのぎ誠にきのどくさまに候へども、金子のきハ御取かへ遊ばし、わたくし明日はかへり、さそく御目にかゝり御礼も申候
□のきハ明日かへり、御目もしのうへ御取なしも申候

あらあら
かしく

なにわや
内

旦那様

（包紙）
「午十一月　　幸保屋
銀八貫目　　幸助殿分」

預り申銀子之事

一、銀八貫目㊞也

右之銀子慥ニ請取、預り申処実正也。然ル上ハ、月壱歩之利足加へ、貴殿御入用之節は、何時ニ而も元利共無遅滞、急度返済可仕候。爲後日之銀子預り証文、仍而如件。

文化七年　　幸保屋
午十一月　　幸助㊞
永田屋平次郎殿

（包紙）
「来ル酉年ゟ午一年迄十ヶ年間弐百目宛
銀弐貫目年賦証文壱通入
来ル酉年分
同　弐百五拾目　証文　壱通入
来ル戌年分
同　弐百五拾目　同断　入
西宮　小西平十郎殿
同所　同家　忠兵衛殿
連印
中島屋半兵衛殿名前分　　」

文化ハ未六月五日銀五貫目取替いたし候処不埒付相対ヲ以当時元銀ニ相定右之内弐貫五百目請取、残リ弐貫五百目ハ右三通証文之通いたし相極置候。爲後日書記置者也。文化九申六月四日
改

年賦銀連印証文之事

合元銀五貫目　利足皆用捨ニ領

内　銀弐貫五百目　當時差入申候

残而元銀弐貫五百目

内銀弐百五拾匁来酉年八月晦日差入可申候

同弐百五拾匁来戌年八月晦日差入可申候

右弐ケ年分別紙連印証文差入置申候

差引残

銀弐㊞貫目㊞　来酉年6午年迄拾ケ年賦

壱ケ年ニ銀弐百目づつ差入可申候

右之通相対を以相極申候、然ル上ハ、拾ケ年之間毎年限月急度返済致候、万一連印之内、差支えもの有之候ハバ相残者より、急㊞度返済可致候。若壱ケ年ニ而も相滞候ハバ、元銀弐貫五百目ヲ以御掛リ可被成候。其時一言之子細申間敷候。爲後日、年賦連印証文、㊞㊞仍而如件。

文化九申年
五月

小西屋
平十郎㊞
同
忠兵衛㊞

中島屋
半兵衛殿

預リ申銀子之事

一、合銀㊞弐百目也

右之銀子、慥㊞ニ請取、預リ申処実正也。返済義者来ル七月十日切ニ、無間違急度返済可申候。爲後日銀子預リ証文、仍而如件。

文化十五　　銀子預リ主
寅四月　　与次エ門㊞
永田屋　　受入
宗兵衛殿　　三郎兵衛㊞

銀子預リ申一札之事

一、銀㊞弐百匁也

右之銀子、慥ニ預リ㊞請取申候処、実正也。然ル上者、月壱割之利足加へ、来ル九月晦日限リ、元利共急度返済可仕候。爲後日銀子預リ一札、仍而如件。

文政六
未四月　　は満屋
　　甚兵衛㊞
永田屋
平次郎殿

覚

一、銀弐百五拾目也

右之銀子慥㊞ニ預リ申候処、実正也。然所来ル十月十五日限りに一ヶ月ニ壱歩之加利足急度無間違、返済可申候右預リ一札如斯。

文政二年
卯九月二十七日　魚屋
市郎兵衛㊞
永田屋
平次郎殿

預リ申銀子之事

一、銀㊞拾弐貫六百三拾匁七分三厘也

右之銀子慥㊞ニ請取、預リ申処実正也。然ル上ハ、月壱割之利足加へ、来ル辰之九月限リ、元利共無相違、急度返済可仕候。爲後日銀子預リ証文、仍而如件。

文政二年
卯十二月
幸保屋
幸助㊞
永田屋平次郎殿

預リ申金子之事

一、金㊞五拾両也

右之金子慥㊞ニ請取、預リ申処実正也。然ル上ハ、月壱割之利足加へ、貴殿御入用之節は、何時ニ而も元利共急度返済可仕候。爲後日之金子預リ証文、仍而如件。

文政三年　　幸保屋

庚辰十二月　　幸助㊞

永田屋平次郎殿

（包紙）

「文政九年

戌二月　　當村

銀弐貫五百目也　　宇平次

証文入　　」

連印ヲ以借用申銀子之事

一、銀㊞弐貫㊞㊞五百目也㊞

右之銀子、此度要用之儀付、我々中へ慥㊞ニ請㊞取㊞、借用申処実正明白也。然ル上ハ、月壱歩之利足ヲ相加へ、来ル亥四月限リに元利共無滞、急度返済可仕候。若連印之者差支有之候得バ、相残候壱人ニ而も、急度返済可申候。爲後日連印一札、仍而如件。

文政九年　　銀子預リ主　宇平次㊞

戌ノ二月吉日　右同断　又左衛門㊞

右同断　栄五郎㊞

右同断　幸左衛門㊞

永田屋平治郎殿

預り申銀子之事

一、銀三百二十八匁也

右之銀子我等中へ、慥ニ受取預り申処、実正明白也。然ル上ハ、月壱歩之利足ヲ相加へ、午九月限リニ、元利共無滞、急度返済可仕候。若滞候得バ連印者々より相弁可申候。右預リ一札、爲後日之仍而如件。

文政五年　預リ主　宇平次㊞
午四月吉日　同　断　幸左衛門㊞

永田屋
平治郎殿

預り申銀子之事

一、銀五百匁也

右之銀子我等中へ、要用儀ニ付、慥ニ受取申候所、実正明白也。然ル上ハ、月壱歩之利足ヲ相加へ、午九月限リニ、元利共、無滞急度返済可仕候。若滞候得バ、連印者より、相弁可申候。右預リ一札爲後日之、仍而如件。

午　文政五年　預リ主　甚兵衛㊞
六月吉日　同　断　幸左衛門㊞

永田屋
平治郎殿

預り申銀子之事

一、銀壱貫㊞㊞　五百目也

右之銀子、我等中へ、要用儀ニ付、慥㊞㊞ニ受取預リ申候処、実正明白也。然ル上ハ、月壱歩之利足ヲ相加へ、来ル四月晦日限リニ元利共無滞、急度返済可仕候。若滞候得バ連印之者ゟ、急度相弁可申候。預リ一札爲後日之、仍而如件

文政五年　預リ主　宇平次㊞

午十二月吉日　同　断　幸左衛門㊞

網屋

茂左衛門殿

預り申銀子之事

一、銀弐貫㊞㊞五百目也

右之銀子、我等中へ、慥㊞㊞ニ受取、借用申候処実正明白也。然ル上ハ、月壱歩之利足ヲ相加へ、元利共無滞返済可申候。万一少々ニ而も相滞候得バ、残ル連印之者より、急度相弁可申候。爲後日之、仍而如件。

文政六年

未三月吉日　借用主

甚兵衛㊞

同　断　幸左衛門㊞

永田屋平治郎殿

（包紙）
「文政六年　未七月　　中ノ村
銀百七拾目也　　吉三郎　」

覚

一、銀百七拾目也㊞
但シ利銀年五分之定慥㊞ニ預リ申處実正也。然ルハ、
其元入用次第無滞元利共急度返済可申候。爲後日
預リ一札、依而如件。

文政六未年　　中ノ村
七月　日　　吉三郎㊞

永田屋平治郎殿

預リ申銀子之事

一、金拾㊞三㊞両也
右之金子、此度無拠要用之儀ニ附、我等中へ慥㊞ニ
請㊞取、預リ申處実正也。然ル上ハ當月より、戊之
五月迄ニ壱ケ月ニ壱割之利足相極四月ニ相成候得
ハ、元利共急度返済可仕候。万一少しに而茂、差
支え者有之候得バ、相残印判之者より、急度相立
可申候、爲後日之預リ連判証文、仍而如件

文政九年
戊　九月吉日　　預リ人　半助㊞
　　同　人　庄兵衛㊞

永田屋平次郎殿

（包紙）
「証文入　浜屋
甚兵衛分」

連印借用証文事

一、銀三貫目㊞㊞也

右之銀子我等中江、慥㊞㊞ニ請取、借用申候処実正也。然ル上ハ壱ケ月ニ、銀三拾目　宛、利足相加江、来ル子ノ四月限リ、元利相残ル、返済可仕候。若連印之内、差支之者、出来候ハバ、相残印形之者より、急度相弁可申候。爲後日之、連印借用証文仍而如件。

文政十年　銀子借用　主
亥極月日　はま屋　甚兵衛㊞
同断
岡田屋　幸左衛門㊞

永田屋平治郎殿

（包紙）
「文政十一年子七月　樽屋
銀壱貫八百目也　吉治郎」

借用申一札之事

一、合㊞銀壱貫㊞八百目也

右之銀子、慥㊞ニ借用申候處、実正也。此質物として、深江樽㊞居壱ケ所又ハ樽仕入内㊞ニ其時ハ、夫々ニ直段ニ被致勘定不被成様、㊞若又酒造家へ樽ニ致し遣し候節ハ、銀子間違ニ相成候ハヽ、樽遣し、先々へ其方より引合被致、少しに而も、数合致まで引取可被下候。其時親類母より少しも違乱申間敷候、爲後日、一札仍而如件。

文政拾一年子七月日
森村樽屋
吉次郎㊞

深江村

永田屋平治郎殿

（包紙）
「文政十二年丑十一月　永田屋
合銀拾弐貫目　八左衛門分也」
又金弐拾両証文　合弐通入

預リ申銀子之事

一、金合銀㊞拾弐貫目也　月八朱極
右之銀子慥㊞ニ請取、預リ申處実正也。然ル上ハ、
其元殿御入用之節ハ何時成共元利共、急度返済可
仕候。爲後日預リ一札仍而如件
文政十二年　銀子預リ主八左ヱ門㊞
丑十一月　証人　幸左衛門㊞
永田屋平治郎殿

（包紙）
「文政十一戌七月廿八日
銀六百拾弐匁八分八厘定
当村
作兵衛分」

年賦証文之事

一、合銀㊞㊞六百目也　但シ元銀也
右之銀子我等、借用申候處実正也。然ル上ハ返済
之儀ハ仲人ヲ以来寅七月ヨリ巳年七月迄仲年十五
ケ年賦之相對行届候ニ付年両度七月ハ十日極月ハ
廿日限リ銀廿匁ツヽ無達済急度返済可仕候若相滞
申候得ハ請人ヨリ相弁可申候。爲後日之年賦証文
依而如件
文政十三年寅七月　仲人　利兵衛㊞
請人　清右衛門㊞
作兵衛㊞
永田屋平治郎殿

（包紙）
「弐両分
魚屋市郎兵衛殿証文
但シ西宮勘十郎之分預リ置」

銀子預リ申証文之事

一、金弐両㊞㊞也
右之金子此度無據儀㊞ニ付、慥㊞ニ借用申處実正也。
然ル上ハ壱ヶ月ニ壱歩之利足加へ来ル辰三月限リ
元利共無滞、急度返済可仕候。爲後日預リ一札依
而如件

天保十四年　　銀子預リ金
卯十二月　　市郎兵衛㊞

請人
吉右衛門　㊞
右同断
八郎右衛門㊞

西宮
勘十郎殿

（包紙）
「文政十二年丑二月
銀百八拾匁也証文入　　西三右衛門」

預リ申銀子証文之事

一、銀㊞百八拾目也
右之銀子此度無據要用之儀ニ付、我々連印申へ、
慥㊞ニ請取預リ申候處実正也。然ル上ハ月壱割之利
足加へ、其元入用之節元利共無滞急度返済可仕候。
万一相滞候ハ、残壱人ニ而も相済可申候。爲後日
預リ連印証文仍而如件

天保七年
申三月　　銀預リ主
三右衛門　㊞
右同断
作左衛門　㊞

永田屋
平治郎殿

連印預り金子之事

一、合金㊞㊞六拾両也

右之金子此度要用ニ付、我々中へ慥㊞ニ㊞請取預り申處、実正也。然ル上ハ壱ケ月ニ銀拾弐匁宛利足加へ、来ル亥十一月限リ元利共無遅滞急度返済可仕候。万一連印ノ内差支等御座候ハヽ、相残印形之者ヨリ無相違返済可仕候。爲後日之金子預り証文仍而如件

天保九年

戌十二月

金子預リ主

永田屋八左衛門㊞

同断

岡田屋幸左衛門㊞

座古屋惣五郎殿

（包紙）

「金弐拾両　但シ証文弐通入　村方分

銀壱〆目

〃〃〃〃

米屋喜平次殿分」

預り申銀子之事

一、銀㊞壱貫弐百八拾目也

右之銀子慥ニ請㊞取、預り申處実正明白也。然ル上ハ月壱歩之利足相加へ、来ル申十二月廿日限ニ、元利共無滞急度返済可仕候。爲後日之銀子預り証文仍而如件

弘化四未年

十二月

銀子預リ主

喜平次㊞

永田平治郎殿

借用申金子之事

一、金三両也

右金子㊞此度我等要用ニ付、慥㊞ニ請取借用申候所実正ニ御座候、然ル上ハ月壱歩之利足を添来十二月限り無滞急度御返済可仕候。爲後日之借用一札仍而如件

嘉永三年
戌七月廿壱日

今津村
又　市㊞
大市村
兵　助㊞

深江
長田屋平次郎殿

預リ申証文之事

一、銀百㊞五拾匁也

右之銀子此度要用之儀ニ付、慥ニ請㊞取預リ申處、実正ニ御座候。然ル上ハ壱ケ年ニ拾弐匁五分宛利足相加へ入用之節ハ無滞返済可致候。爲後日預リ証文仍而如件

嘉永六
巳年三月

預リ主
九郎兵衛㊞

和讃講中
代徳右衛門殿

預り申金子之事

一、金

右之金子我等中へ慥ニ受取預リ申處実正也。然ル上ハ当丑年酒荷物積切ヨリ来ル寅年積切迄壱ケ月ニ五朱之利足を加へ三ケ度ニ元利金高無滞、急度返済可仕候。万一相滞儀有之候ハ、残ル印形之者ヨリ皆済可仕候。爲後日之連印を以預リ証文依而如件

嘉永六丑年　　預リ主

六月　　永田屋平次郎

同断

河内屋與三兵衛

同断

万屋　栄　藏

伊丹

大和田屋平右衛門殿

銀子借用年賦証文之事

一、㊞㊞銀壱貫六百五拾目也

右之銀子、慥ニ請取借用申候処実正明白也、然ル上は此度相対ヲ以テ、壱ケ年ニ㊞㊞銀百六拾五匁ツヽ当未年ゟ来ル辰年迄、拾ケ年之間、毎年極月晦日限リ、無滞急度返済可仕候、万一、壱ケ年ニ而も相滞義有之候ハヽ右元銀ニ壱ケ月ニ壱分之利足相加え、一集メ無滞、急度皆済可仕候、其時一言之申分無御座候、尤本人相滞義御座候ハヽ其請人方ゟ急度相立返済可仕候、爲後日銀子借用年賦証文依而如件

安政六年

未十二月

銀子借用主

幸左衛門㊞

右請人

弥右衛門㊞

平治郎殿

預り申銀子之事

一、銀㊞㊞六百目也

右之銀子、慥㊞㊞ニ請取預り申候処実正明白也、然ル上ハ年壱分之利足相加え、貴殿御入用之節は何時成共、御返済可仕候、爲後日預り申銀子証文依而如件

安政六

未十二月

岡田屋

銀預り主　幸左衛門㊞

同

請人　弥右衛門㊞

永田屋平治郎殿

銀子借用年賦証文之事

一、合銀㊞五貫五百目也

右之銀子、我等要用之儀ニ付、慥㊞ニ請取借用申処実正也、然ル上は此度相対ヲ以、壱ヶ年ニ銀㊞百拾匁ツヽ当亥年ゟ来ル丑年迄、五㊞拾ヶ年之間、毎年極月晦日限、無滞急度返済可仕候、万一、壱ヶ年ニ而も相滞義有之候ハヽ右元銀ニ壱ヶ月ニ壱歩之利足相加へ、一集メ無滞、急度㊞皆済可仕候、其時一言之申分毛頭無御座候、尤本人相滞義御座候ハハ、加判之者ゟ急度相立返済可仕候、爲後日銀子借用証文依而如件

文久三亥年

九月　年賦銀預り主

太郎兵衛㊞

右請人川原村

長兵衛㊞

永田屋

平治郎殿

預り申金子之事

相場弐百弐拾匁也

一、金㊞弐両弐分

右之金子、慥㊞ニ預り申処実正也、然ル上ハ此金子之儀ハ、急度返済可申候、預り手形依而如件

慶応四年

辰七月　　預り主

太郎兵衛㊞

請人

久兵衛　㊞

永田屋平治郎殿

（包紙）

「上　　今津村小頭

十三久　」

借用申一札之事

一、金㊞壱両也

右者此度、私共要用之儀御座候付、慥㊞ニ請取借用仕候所実正也、然ル上は来ル寅五月晦日限リ、元利共無滞、急度返済可仕候、爲後日之依而如件

寅

正月　　今津村小頭

十三久㊞

御旦那様

上

覚

一、金三百両㊞也

右之通、慥ニ預リ申候、当月晦日限、㊞無相違返済可申候　以上

卯十一月十一日　□□

□□□㊞

永平次郎様

預リ申銀子之事

一、合銀子三百目也

一、右之銀子、慥㊞ニ預リ請取申所実正㊞明白也、然ル上は一ヶ月ニ銀三匁宛利足加へ、元利共無滞、急度返済可仕候、爲後日仍而如件

酉

三月　預リ主

米屋　清蔵㊞

永田屋平次郎殿

明

治

（包紙）庄之助頼母子ノ　　別紙

大和屋喜兵衛証文

質物差入申証文之事

一、㊞瓦葺米蔵　　梁行三間　桁行五間　壱ケ所

右之建藏我等所持ニ御座候所、要用ニ付此度其許殿へ質物ニ差入、金㊞拾両慥ニ請㊞取借用申候處実正也。然ル上者、壱ケ年ニ壱割三歩之利足を相加へ、来ル未七月限リ元㊞利金共無遅滞急度返済可仕候。万一限月ニ至リ金子相滞候ハヽ右質物致帳切、無異儀相渡シ可申候。其時一言之申分無御座候。爲後日金子借用申質物差入証文依而如件

明治三年　　質物主

午七月　　喜兵衛　㊞

請人

善太郎　㊞

永田屋

平次郎殿

前文相違無御座候ニ付奥印仕候。以上

庄屋　喜右衛門　㊞

（端裏附箋）「野馬譲証文」

譲渡証文之事

一、屋敷㊞七畝六歩　分米㊞九斗壱升

右地面之内ニ建物

一、居宅㊞壱ケ所　梁行　四間　惣瓦ふき

桁行　六間

戸障子釘付之品当時有姿之儘

但シ南北西ニ間中之下リ付、座敷先ニ東西三間

南北七間囲有

内但、間中ニ壱間之上雪隠庭木石廻リ不残有姿

之儘

一、居宅㊞乾續ニ土蔵壱ケ所　梁行三間　惣瓦ふき

但シ東ニ間中之下シ付　桁行弐間半

一、居宅㊞巽ニ土蔵壱ケ所　梁行弐間　惣瓦ふき

但シ北ニ壱間之下シ付　桁行三間

一、居宅㊞北ニ納家壱ケ所　梁行三間　惣瓦ふき

但シ　桁行六間

一、居宅㊞巽ニ納家壱ケ所　梁行三間　惣瓦ふき

但シ西北弐方ニ壱間之　桁行六間

瓦下シ付

一、井戸㊞　壱ケ所　一、雪隠　壱ケ所

〆

字古七郎田（こちら）

一、下田㊞壱反弐畝歩　分米㊞壱石三斗弐升

字枝

一、下田㊞壱反弐拾八歩　分米㊞壱石弐斗三合

同所

一、下田㊞壱反六畝拾九歩　分米㊞壱石八斗三升

前田

一、下田㊞七畝六歩　分米㊞七斗九升弐合

同所

一、下田㊞壱反拾九歩　分米㊞壱石三斗七升

同所

一、下田㊞八畝三歩　分米㊞八斗九升壱合

〆

右之家屋敷納屋田地我㊞等所持ニ御座候處、此度無據要用之儀ニ付譲リ渡シ、爲礼金四百三拾両慥ニ請取申候處実正明白也、然ル上者、御年貢諸役諸掛リ合等一切其元殿カ御勤可被成候。尤右家屋敷

田地ニ付親類者不及申、脇外ヨリ違乱妨申もの毛頭無御座候。
若故障ケ間敷儀申もの出来候ハヽ、加印之者罷出急度埒明貴殿へ少茂御難儀相掛ケ申間敷候。
爲後日之譲リ渡シ証文依而如件

明治三年
午九月

譲渡シ主　本　藏

請人　忠右衞門

永田屋
半次郎殿

前書之通相違無御座候ニ付奥印仕候以上

庄屋　善右衞門

（端裏付箋）「阿ミ納屋証文　夘之助名前」

譲リ渡シ証文之事

一、瓦ふき建家壱ケ所　北南　四間　東西　六間

但シ東ノ手ニ壱間半ノ卸付

一、藁ふき建家壱ケ所　南北　三間　東西　五間

一、同壱ケ所　南北　弐間半　東西　五間

一、同壱ケ所　南北　五間　東西　弐間半

〆一井戸壱ケ所　一雪隠　壱ケ所

右之建家我等所持ニ御座候處此度無據要用之儀ニ付貴殿へ譲リ渡シ爲礼金百三拾両慥ニ請取申處実正也、然ル上ハ其許殿御勝手次第御支配可被成下候、尤右建家ニ付脇外ヨリ違乱妨申者毛頭無御座候。若故障ケ間敷儀申者出来候ハハ、印形之もの

罷急度埒明貴殿へ少茂御難義相懸ケ申間敷候
爲後日之建家譲渡シ証文依而如件
明治三年
午閏十月　　譲リ主　善右衛門　㊞
受人　善太郎　㊞
永田屋
宇助殿
前書之通相違無御座候ニ附奥印仕候以上
年寄　平次郎　㊞

覚

一然シ、右ケ條ニ付納屋貸賃残リ分者其元様へ御取可被下候。ほゝ来所其元へ弐斗五升御渡シ可申候右之諸入用三ツ割仕候、先貸賃之三拾文ハ中間へ御出シ可被下候、建家百三拾両トシテ御買可被下候宜敷御頼申上候。扨金子三拾両早々御かし可被下候。以上

閏月十六日　善右衛門
平治郎様
是ニ参リ不申候ハ
当之屋敷處十ケ年之間
御かし可被下候以上

（端裏附箋）「平八家証文」

譲り渡シ証文之事

一、屋舗㊞弐拾八歩　分米㊞壱斗弐升弐合

一、中㊞畑壱畝拾弐歩　分米㊞壱斗三升七合

一、居㊞宅壱ケ所　梁行三間　桁行五間

但シ惣瓦ふき北南間中下付

戸障子釘付之品根石不残当時有姿之儘

一、井戸壱ケ所　一、雪隠壱ケ所

右之家屋舗我等所持ニ御座候處、此度無據儀ニ付貴殿へ譲リ渡、礼金㊞㊞七拾九両壱朱五百文慥ニ㊞請取申候處実正明白也。然ル上者、御年貢諸役等一切其元殿ヨリ御勤可被成候。尤家屋ニ付脇外ヨリ違乱妨申者毛頭無御座候。若ケ障ケ間敷儀申もの出来候ハヽ、請人罷出急度埒明貴殿江少茂御難儀相懸ケ申間敷候爲後日之家屋譲リ渡シ証文依而如件

明治四年

未三月

譲リ主　平八㊞

請人　喜左衛門㊞

永田平次郎殿

前書之通相違無御座候ニ付奥印仕候。以上

庄屋　中田善右衛門㊞

（端裏附箋）「庄八証文」

本物返シ畑地譲リ渡証文之事

字踊松□新田

一、下々畑弐拾六歩　分米五升弐合

字同断

一、下々畑壱畝六歩　分米七升弐合

堤立木　七本

右之畑立木共我等所持ニ御座候處、此度無據儀ニ付当未六月ヨリ来ル酉ノ六月迄丸弐ケ年間本物返シ譲リ渡シ、則礼金十七両三歩壱朱慥ニ受取申候處実正也。然る上者、御年貢諸役等一切其元殿ヨリ御勤可被成候。尤酉、六月迄金子調達仕候得者、右畑地立木共御戻シ可被下候。若日限相過候へ者、勝手次第御支配可被成候。其時一言之子細申間敷候。尤右畑地ニ付親類ハ不及申、脇外ヨリ違乱妨申者毛頭無御座候。爲後日之本物返シ畑地譲リ渡シ証文依而如件

明治四年

未六月　　譲リ主　　庄　八

請人　　久兵衛

同断　　彦右衛門

永田平治郎殿

前書之通相違無御座候ニ付奥印仕候以上

庄屋　　中田善右衛門

（端裏附箋）「源二郎証文」

二ノ弐號

賣渡申証券

印紙

一、金拾八圓五拾銭也

右之金高を以賣渡シ地所左ニ

七百壱番

一、屋敷拾五分中畑地代金壱圓拾銭

此旧石高　五升

右之通我等所持ニ御座候處、今般金子入用ニ付以相對賣渡、前書之金高正ニ受取申候處確実也。然ル上ハ、御租税并村入費ニ至迄向後御勤可被成候。尤右地所ニ付子細毛頭無御座候、万一異乱妨申者出来候ハヽ、本人ハ勿論受判之者罷出速ニ埒明微劣御迷惑相懸ケ申間鋪候。爲後証屋舗地賣渡申証券依而如件

明治八年

亥二月十六日

賣渡主

前田源次郎

受人

前田　松造

永田平次郎殿

本文之通相違無之候也

戸長

永井庄左衛門

前書之通相違無之候也

原郡江村戸役場印　乙　第壱号

戸長

中田秀一㊞

（端裏附箋）「坂上八郎兵衛ヨリ入証文」

畑地賣渡シ証券

一、金㊞三圓也

右金額ヲ以賣渡候品左ニ

字神樂田百三拾六番

一、畑壱畝廿壱歩　此地價七圓八拾銭六厘

但券状面ハ村中持

〆

右ハ當村神樂講中持ニ御座候處、我等永久鍬下ニ而所持仕罷有候、然ルニ今般相對之上貴殿ヘ賣渡シ、則前顕之金員㊞正ニ請取候處実正也。以後ハ租税金幷ニ金弐銭五厘宛毎年爲作徳料ト神樂講中ヘ相渡可被下候。爲後日賣渡シ証券如件

明治十六年

一月四日

賣渡主

坂上八郎兵衛㊞

右請人

飯田　八尾松㊞

永田平次郎殿

（端裏附箋）「大坂屋藤吉分」

建家賣渡証券

印紙 印 印紙

一、金三拾圓弐拾銭也

右金高を以賣渡シ品左ニ

一、㊞建家壱ケ所　梁行　弐間

桁行　弐間半

但惣瓦ふき

尤雨廻り釘付之品者勿論当時有姿儘

右之建家我等所持ニ御座候處、今般無據儀ニ付其元殿江賣渡、則右代金正ニ請取申候處実正也。尤建家ニ付故障等申者毛頭無御座候。若彼是申者出来候ハヽ、加印之者罷出其元殿江少茂御難儀相懸ケ申間鋪候。爲後証建家賣渡証券依而如件

明治十年丑一月

賣渡主

永井藤吉　㊞

右受人

松尾仁左衛門㊞

永田平治郎殿

書面之通相違無御座候ニ付奥印致候也

永田平兵衛　㊞

（端裏附箋）「中村太郎兵衛分」

田地賣渡シ証券

印紙 ㊞㊞

一、金三百六拾圓也

右金額ヲ以賣渡シ之品左ニ

弐百拾四番字賀治や

一、田壱反㊞七畝歩　地價金百七拾四圓九拾四錢二厘

三百番字大前

一、田五㊞畝歩　地價金五拾三圓六拾三錢四厘

弐百九十弐番仝所

一、田三㊞畝廿壱歩　地價金三拾九圓六拾八錢九厘

弐百九十九番仝所

一、田弐㊞畝廿七歩　地價三拾壱圓拾錢八厘

〆反別弐反八㊞畝拾八歩

地價金弐百九十九圓三拾七錢四厘

右之田地我等所持ニ御座候處、今般無據儀ニ付貴殿へ賣渡シ、則前顯之金員正ニ請取候處実正也。然ル上者、地租及地方税協議費ニ至ル迄一切貴殿ヨリ相納可被成候。尤右田地ニ付脇外ヨリ違乱妨申もの毛頭無之、若故障等申もの出来候ハヽ、請人罷出急度埒明貴殿へ少シ茂御難義相懸申間鋪候。爲後日之田地賣渡シ証券如件

明治十六年一月廿五日

田地賣渡主中野村

小寺太郎兵衛㊞

右請人

高橋仁兵衛　㊞

仝郡深江村

永田平次郎殿

前書之通相違無之候ニ付奥印仕候也

右村戸長

高橋安左衛門　㊞

（端裏附箋）「泉信治郎」

賣主　泉信治郎　㊞
請人　同直次郎　㊞

永田平治郎殿

地所賣渡証券

㊞
印紙

一、金拾八円也
　右金額ヲ以左之通
弐百四拾番字納家後
一、畑㊞壱畝拾弐歩　代價六円四拾弐銭八厘
百六拾番字東濱
一、㊞草生地三反弐畝十二歩　代價壱円七拾八銭八厘

〆

右之通賣㊞渡シ前書之金額㊞正㊞ニ請取申候處確実也。
然㊞ル㊞上ハ、右地所ニ付脇ヨリ違乱妨申者毛頭無御
座候。万一故障申者有之候ハヽ、請人者罷出吃度
埒㊞明貴殿へ少シ茂御難儀相懸ケ申間鋪候。尤向後
ヨリ租税金ハ勿論諸懸リ共貴殿ヨリ御勤可被成候。
爲後日賣渡証券仍而如件
　明治十六年
第三月三日

原郡
村戸長
場印

第九号
前書之通相違無之候也

戸長　中田秀一　㊞

（端裏張紙）「中野村太郎兵衛」

建家宅地賣渡シ証券

印紙 印 印

一、八拾圓也

右之建家宅地賣渡シ左ニ

攝津國菟原郡中ノ村字道西三百十九ばん

一、宅地五畝十二歩　此地價金三十九圓八十八錢四厘　長印 戸長印

梁行三間半

桁行五間半

一、家宅壱ケ所　印

南ニテ八尺廣シ付東ニテ八尺下付

梁行一間半

桁行壱間半

一、土藏壱ケ所　印　戸長役場

梁行二間

桁行二間

一、納屋壱ケ所　印　戸長役場

〆建家三ケ所有姿戸拾一枚障子七枚其儘

井戸雪隠宅地有之成木不残

右者我等所持ニ御座候處、今般相對ヲ以テ賣渡候處確実也。印 然ル上者、十八年度ヨリ地租幷ニ協議費一切貴殿ヨリ相勤メ可被成候。尤モ右建家宅地ニ付故障等申もの有之候節ハ、請人ヨリ印罷出急度埒明ケ貴殿へ少シ茂御難儀相掛ケ申間敷候。爲後日之建家宅地賣渡シ証仍而如件

明治十八年　賣渡主中の村

四月廿五日　小寺太郎兵衛 印

受人森村

松本太郎兵衛 印

取扱人

高橋安左衛門 印

深江村

永田平次郎殿

前書之通承認候也

甲第六拾四号　役場印

右戸長代理

甲掛東浦彦平 印

乙第拾六号　役場印

十八年五月三日

（端裏張紙）「藤平次」

田地賣渡シ証券

印紙印

一、金百弐拾六圓也

右金高ヲ以賣渡シ品左ニ

八百五番字東休弥

一、田壱反六畝廿壱歩　代價百四拾八圓

八十銭壱厘

右之田地我等所有ニ候處、此度無據金子入用ニ付其元殿へ賣渡シ、則前顯之金圓正ニ受取申處実正也。然ル上ハ、從前右田地ニ付租税ハ無論協議費諸懸リ物等之未済一切無之、自今右之諸掛リ合等者貴殿ヨリ御勤可被下候。尤右田地ニ付脇外ヨリ違乱妨申者毛頭無之、万一故障ケ間敷義申者出来候ハヽ、加判之者罷出吃度埒明其元殿へ少シも御難御掛申間敷候。爲後日之田地賣渡シ証書仍而如件

明治十六年十二月十六日

田地賣渡人　永田藤平次

保証人　納多茂兵衛

永田平次郎殿

第拾弐号

書面相違無之候也

菟原郡深江村組長

明治十六年十二月十七日　久保平兵衛

賣渡シ証文之事

印紙

一、金三拾六圓也

右金高ヲ以賣渡シ候品左ニ

深江村八百十六番地岡田正造所有地

一、居宅壱ケ所　梁行三間

桁行三間

但惣瓦葺也南北ニ瓦ふきおろし有

釘付之品不残当時有姿之儘

一、井戸壱ケ所　一、雪隠壱ケ所

右者我等所持ニ御座候處、今般相對ノ上貴殿へ賣渡シ、則前顯之金員正ニ請取候處実正也。然ル上者、右賣却品ニ付故障申もの出来候ハヽ、請人罷出急度埒明貴殿へ迷惑相懸申間敷候。爲後日之賣渡シ証文依而如件

右賣渡人

明治十七年四月廿八日　岡村外兵衛

請人

丸谷弥次郎

地主

岡田正藏

永田平次郎殿

第五号

書面相違無之候也

明治十七年

十一月十日

深江村外二ケ村

戸長　久保平兵衛

第五号附属

明治十七年四月廿八日賣渡シ
兵庫縣下攝津國菟原郡深江村
第八百十六番地ニ有之建物

雪隱　㊞

三間
第壱番
本家
此坪数
十二坪

兵庫縣下攝津國菟原郡深江村
第弐百十七番戸
建物持主
岡村宇兵衛㊞

永田平次郎殿

（端裏附箋）
「小右衛門家の証文
かもやヨリ買入分」

印紙

契約証書

菟原郡本山村之内中野村弐百拾四番
字鍛冶屋
一、田壱反七畝歩
同郡同村之内同所弐百九拾弐番
字御前弐百九拾弐番
一、田三畝弐拾壱歩
同郡同村之内同所
字仝上弐百九拾九番
一、田弐畝廿七歩
同郡同村之内同所　番地
字仝上三百番
一、田五畝歩

右之地所去ル明治十六年　月　日付ヲ以テ賣渡候處、其際追テ拙者ヨリ之金調達返済シタルトキ該地所御賣戻シ可相成契約締結仕候。然ル處今般都合ニ據該契約取消候間、自后貴殿ニ於テ随意該地御支配可被成候。爲後日契約証書差入置候也

明治廿五年五月拾七日

菟原郡本山村之内中野四拾五番邸

小寺　廣吉　㊞

仝村之内仝所廿七番邸

受人　松田安右衛門㊞

同郡本庄村之内深江村

永田亀吉殿

以下余白

覚

一金三拾五両也　正

七弐九九

右之通慥受申候以上

午十月十四日　柴屋

與三兵衛㊞

永田屋

平治郎殿

（端裏付箋）「木も証文
弥右衛門引受」

覚

一、金弐拾四両

右之通慥ニ預り申候　以上

巳十月

木綿屋
茂兵衛㊞

永田屋平次郎殿

借用申証文之事

一、㊞金弐拾四両也

右は其許殿濱藏入置候網諸道具不残引當てとして㊞借用申處実正也。然ル上ハ、月壱分ノ利足相加へ、来ル極月晦日限元利都合付急度返済可仕候。爲後日金子借用証文依而如件

明治弐年
巳十月一日

木綿屋
茂兵衛
借用人
代　弥右衛門㊞

永田屋平治郎殿

（端裏附箋）「白井出精証文」

出精証文之事

一、銀四㊐拾四貫七百目也　　但シ

残銀

右之銀子我等借用罷在候所、近年来不仕合ニ付、返済方ニ難出来候ニ付、格別ノ御勘弁ヲ以出精証文ニ被成下、然ル上者私出世仕候へ者元銀無相違急度返済可申候。爲後日之出精証文仍而如件

深江村

白井屋

明治二巳年　　弥三郎　㊐

十二月

永田屋

平治郎殿

（包紙）　覚

一、酒造株御發止ニ付礼金年賦証文幷仲人爲取替寫書

借用申金子之事

一、金百両也

右ハ要用ニ付書面之通慥ニ借用致處実正也。返済之儀者、来ル十一月限金百両ニ付壱ケ月ニ五朱利足ヲ差加へ元利共急度返済可仕候　萬一期月相滞候ハヽ加判人ヨリ本人ニ不抱弁済可仕候。爲後日借用金子証文仍而如件

明治六年　　借用主

酉三月　　永田平治良

同断

同　平兵衛

右請人

岩田　才助

伊塚豊之助殿

借用申金子之事

一、金三百両也　　月ニ五朱之利足

右ハ要用ニ付書面之通慥ニ借用致候處実正也。返済之儀ハ、来ル戌十一月ヨリ寅十月迄毎年十月限金六拾両宛急度返進可致候。萬一壱ケ年ニ而茂相滞候ハ、約定不抱元利一時ニ返進可仕候。萬一本人差支之節者、加判人之者ヨリ弁済可致候。爲後日借用金証文仍而如件

明治六年
　　酉三月

借用主
永田平次良
同断
同　平兵衛
請人
岩田　才助

伊塚豊之助殿

爲取替一札

一、其許殿ヨリ去ル明治元辰年十月金千弐百両借請、内金四百五拾両追々相渡、差引残金七百五拾両此利五百七両元利〆金千弐百五拾七両相滞候ニ付催促ヲ請、仲人ヲ以段々相頼候處、右金高之内六百五拾七両用捨勘弁預リ、引残金六百両左之通相渡可申約定

一金百両　　今日相渡
一同百両　　来ル四月十五日渡
一同百両　　来ル十一月廿日相渡可申事
〆
引残金三百両　　来ル戌年ヨリ向フ寅年迄五ケ年之間毎年十月限無利足ニ而六拾両ツヽ相渡約定

但壱ケ年ニ而も相滞候ハヽ、右約定ニ不抱残金ニ月壱歩之利足ヲ加へ元利一時ニ可相渡約定

右之通約定爲取替一札仍而如件

明治六年
　　三月廿三日

永田平治良
同　平兵衛
岩田　才助

伊塚豊之助殿

証人
岡村久良兵衛殿

同断
藤岡　勝助殿

（附箋）
「伊丹様掛リ
証文」

借用証券

一、金㊞貳円也

右は永田平治郎へ差入証券新証文ニ仕節ニ右弐円差引仕候間、本紙相認メ候迄私シ御借被下候、右証文迄之請証証券爲後証仍而如件

永田平治郎
委任請代理
永井庄七㊞

明治十一年
寅第八月十五日

好村庄右衛門殿

（端裏付箋）
「竹五」

金円借用証券

印紙㊞

一、金弐拾三円也㊞　但シ壱ケ月ニ
壱歩半㊞約定

右之金円正ニ請㊞取借用申候所実正也。然ル上者、返済之儀来ル明治廿壱年十二月三十一日迄壱ケ年ニ金拾円ツヽ㊞、急度返済可仕候。万一相滞候ハヽ、請人者ヨリ急度返済可仕候　爲後日之依而金円借用証券如件

金円借用主
飯田五郎左衛門㊞
右請人
大和利左衛門㊞

明治弐十年
一月七日

永田亀吉殿

証券

一、金㊞拾七円也

右之通我等正ニ預㊞リ申候実正明白
御入用之節　急度返済可申候
巳二月廿七日

牧
佐藤久乃㊞

永田平次郎殿

一兎原郡脇ケ濱村山口松太郎外壱人江

口上

今日別人御遣シ被下承知仕候ニ付頭人佐介殿へ引合致候所、何分カレ是被申候間、何卒百両ハ正當ニ渡シ猶又三百両之証文ハ印紙之張用も相違致候間先之通リ御認可被下候

いつれ今年御厄事無御座候得ハ頭出候事此段御承知可被下候。以上

廿六日　　久兵衛

永田様

但シ岩田才之介

印形無御座候

利足金十ケ月　　五両不足

（端裏付箋）

「おまつ家受一札」

貸家借請証券

一、其元殿所持之貸家今般私引受ニ相立借受申候處実正ニ御座候。然ル處家賃之儀ハ壱間ニ金壱円五拾銭ニ相定、則住居中附物有姿之儘借受、尤其元殿御入用之節ニ者元々姿之儘無相違明渡可申候。

爲後証之貸家借受証券依而如件

明治九年八月

但附物左ニ

表ノ四枚部家窓ノ戸障子

門ノ口戸障子表口揚戸揚店下ケ也

北口ニ戸弐枚

右之通附物相違無御座候。以上

借請主　　川端　ゑ津　㊞

引請人　　志井五郎兵衛㊞

永田平治郎殿

差入申引請証券　「付箋　家受一札新七」

一、其元殿所持之貸家、今般我等引請住居爲致申處実正也。然ル上家賃之儀者、六十日ニ金壱円㊞六十弐銭五厘ニ相定、勿論無遅滞御渡可申候。尤本人差支候節者私ヨリ無滞屹度相渡可申候。其時一言之子細申間敷候。爲後証差入申引請証券依而如件

但貸家ニ付御入用之節者何時ニ而茂無違背明渡可仕候

明治九年十月廿一日

借家人
和田新七㊞

引請人
宮田久藏㊞

永田平治郎殿

付箋「家受一札　庄八」

借家引請一札之事

一、其元殿御支配被成候建家、今般私請負ニ相立借請申處実正也。然ル上家賃之儀者、壱ケ月ニ金拾弐銭ニ相定尤住居爲致罷在候。然ル處家賃金又者住居中其元殿少茂御苦労相懸ケ申間敷候。爲後証借家引請差入依而如件

明治九年十月廿九日

請負人　永井庄八郎㊞

借家預リ主　泉　利之吉㊞

永田平治郎殿

家受一札之事

一、借家　壱ケ所

右ハ貴殿借家正ニ借受申候處実正㊞也。然ル上者、毎間金七拾銭宛無相違相渡シ可申候。若一ケ度ニ而茂相滞候節者、受人之者引受少しも御難儀相掛申間敷候。猶借家貴殿御入用之節者何時ニ而も明渡シ可申候。爲後日家受一札依而如件

明治十四年

十一月五日

吉岡　弥右衛門㊞

永田平治郎殿

地所借受証文之事

字納家ノ後二百三十六番

一、宅地　壱反九畝廿七歩

字同所　　弐百三十六番ノ甲

一、畑　　壱畝六歩

〆

此宛米壱ケ年四石宛ノ極〆

但以後御改正ニテ地租減シ候節者

此宛米至當ニ御引下ケ被下候

右之地所其許殿御所持之處、此度相對ヲ以我等正ニ借受候處実正也。然ル上者、前書極〆之宛米毎年十二月廿五日限リ無相違相渡シ可申候。爲後日地所借受証依而如件

明治十五年三月廿二日

借受人

永田平治郎

岡田正藏殿

宅地借受証文之事

印紙

字磯島

八百十六番地ノ内灘井幸右衛門へ御貸地之外

一、宅地壱ケ所　　此宛米壱ケ年

六斗四升宛

右之地所此度相對ヲ以我等正ニ借受候處実正也。然ル上右宛米毎年十一月廿五日限リ無相違相渡可申候。尤右之地所御入用之節者何時成共明渡可申候。爲後日之宅地借用証文仍而如件

明治十七年

五月

永田平次郎

岡田正藏殿

（端裏付箋）「三キ証文也」

印紙㊞　証文事

一、此度其元殿借家私かり受申候處実正ニ御座候。然ル上者、壱ケ月三十弐銭五厘宛家賃相納申候。尤御地入用之節ハ何時ニ而も明渡シ可申候。爲後日仍而如件

明治十八年七月十九日

三木三次郎㊞

永田平次郎殿

（端裏附箋）「大卜弥助」

印紙㊞　借家証文之事

一、建家　壱ケ所

但家賃壱ケ月金三拾弐銭五厘定

右者貴殿所有之處、今般相對之上我等借受候處確実也。然ル上者、毎月三拾日限リ右約定之通リ家賃金無滞急度相渡シ可申候。若シ壱ケ月ニ而相滞候ハヽ、本人ニ不抱請人ヨリ弁償仕、貴殿江聊御損相懸申間敷候、猶又右建家貴殿御入用之節ハ何時ニ而茂明渡シ可申候。爲後日借家証文如件

明治十九年

第四月二日

借主

西田弥助

請人

寺田伊平次㊞

永田平次郎殿

（端裏付箋）「源次郎受人仁左衛門」

貸家借請証書

一、貴殿所有之貸家借受住居致候處実正也。然ル處家賃金壱ケ月ニ四拾弐銭五厘、尤節季毎ニ金ハ拾五銭宛相渡シ可申約定ニ御座候。若亦壱ケ度ニ而茂相滞儀有之候ハヽ、請人之者ヨリ相弁、貴殿江少茂御難儀相掛申間舗候。萬一貸家御入用之節ハ何時成共速ニ明渡シ可申候。爲後日貸家借請証書如件

明治十九年
第九月　　借受主　　前田源次郎　㊞
受人　　同　平　介　㊞
同断　　松尾仁左衛門㊞
永田亀吉殿

貸家借受証

印紙㊞

攝津國菟原郡深江村
拾弐番地
一㊞、建家壱軒

右者今般私都合ニ據リ貴殿御持家ヲ借受申處実正明白也。借受移轉之上者、規約之通其初月ヲ期トシ、一ト間者則チ仮令ハ一月二月ヲ合算六十日間ニ、金四拾銭ヲ廿五日限リ急度家賃金相拂㊞可申、若シ万一壱ケ月ニテモ相滞候節者、受人之者ヨリ弁償スルハ勿論也。然ルニ家賃滞無候共、家主ニ於テ此家御入用之砌者、御沙汰次第速㊞ニ明渡可申候。其節家族之者共ニ至ル迄一言半口彼是申者有之候ハヾ、請人之モノ罷出貴殿江聊御惑慮相掛ケ申間敷、旦御村方御示シ縣令告示等ハ急度相守、諸役掛リモノ等者私ヨリ相勤可申候。爲後日借家証券請人連署依而如件

明治廿年
亥八月三日　　借主　　中細佐兵衛㊞

請人

三木三次郎㊞

永田平次郎殿

（包紙）「濱崎角右衛門証文酒造藏一式」

譲リ渡申証文之事

一、酒造㊞藏壱ケ所　梁行五間半
　　桁行拾五間半
一、同㊞前藏壱ケ所　梁行　五間
　　桁行拾五間半
一、樋㊞藏　壱ケ所　梁行　三間
　　桁行　五間
一、井戸㊞　壱ケ所

〆

但酒造㊞道具一式地面之義ハ村方ヨリ借地
毎年米壱石五斗宛相計来リ候

右之建家并酒造道具一式我等所持ニ御座候處、此度無據要用之儀ニ付譲リ渡、代金五㊞百四拾三両慥ニ請取申候處実正也。然ル上ハ、御年貢諸役等一切其許殿ヨリ御勤可被成候。尤右建家ニ付親類ハ勿論脇外ヨリ違乱妨申者毛頭無御座候。若故障ケ

間舗義出来候ハヽ、受人之者罷出急度埒明貴殿江
少シ茂御難儀相懸ケ申間敷候。爲後日建家酒造道
具譲リ渡証文依而如件

明治五年
申十一月　譲リ主
濱崎角右衛門㊞
受人
同　角　市　郎㊞
右同断
三枝　源兵衛㊞
永田平次郎殿

前書之通相違無御座候ニ付奥印可仕候以上
戸長
中田善右衛門　㊞
永田平次郎殿

印紙㊞　証

一、酒造藏　　壱ケ所
此敷賃金百圓也
右酒造場㊞正ニ借請候處実正也。然ル上者、来ル明
治十五年二月三十日限リ右敷賃無違皆済仕候。
若相滞候ハヽ、如何様之御取立被成下共一言之申分
無御座候爲後日依而如件

明治十四年
十一月
酒造場借主
藤井亦左衛門㊞

証

印紙㊞

一、大祝印酒　大祝詰　弐㊞拾五駄

一、惣花印同　拾㊞五駄

右之通正ニ受㊞取申候。追而仕切差出候上此証書御引替可被下候也

明治十六年
第十一月廿八日

廣岡治郎三郎㊞

永田平治郎殿

印紙㊞

酒造薪請合証

一、酝数　四拾酝也

壱酝ニ付弐円五十銭ガヘ

右之通正ニ請㊞合申上候處萬一四十酝ヨリ過酝ニ相成候ハヽ拾酝ニ付十銭ツヽ直引仕候。爲後日薪請合証依而如件

明治十八年
第七月廿日

薪請合主
佐野正太郎㊞

永田亀吉様

（付箋）「小そ又四郎」

印紙㊞

水車搗御預リ米請合証

一、㊞ 今般貴殿酒造用米搗立方私共江御申付被成下難有仕合ニ奉存候、然ル上者、該米搗立方精々入念可致候、勿論御米預リ申融通使用不仕候。申迄モ無之縦令如何様之義出来申候共、少シモ貴殿江御損難相掛ケ申間敷候。悉皆私より償却仕、萬一本人弁済難務節者請判之者ヨリ如何程ニ而モ弁償可致候。爲後日証差入申預リ米契約証如件

明治十九年　　米預リ人菟原郡小路村
十二月　　吉田音松㊞
同郡ふキ合村生田但
冨澤宇之介㊞
同郡深江村
永田平次郎殿

印紙㊞

金子借用証

一、金拾五圓八拾六銭三厘　　但無利足

右之金子我等中ニ正ニ請取借用仕候處確実也。然ル上者、返済之義者明治弐拾五年差向三ケ年間ニ全金ヲ三割ニ致シ、壱ケ年毎ニ金五円弐拾八銭七厘ヅヽ毎年十月三十日ニ急度返進可仕候。万一本人差支ニ相生シ候節者、本人ニ抱ラズ請人之者ヨリ急度返却可仕候。決シテ貴殿へ御難儀相掛申間敷候。爲後日金子借受証書依而如件

明治廿五年　　金子借用主
第三月　　日　　永田藤平次㊞
右請人中村
中巻茂兵衛㊞

印紙

小作証書

深江村字東枝

一、田地五反四畝弐拾壱歩

此小作年貢米八石六斗七升五合

右者貴殿御所持之田地、今般我等借請小作仕候處確実也、然ルニ前記年貢米明治廿五年ヨリ来ル廿六年拾月三十日迄弐ケ年間限リ、前記年貢米之内四斗丈ケ相對ヲ以テ引減シ被下、差引八石弐斗七升五合ヅヽ、其年十月三十日ニ相納可申様御聞届被下難有奉存候。然ニ右年期相満候上者前記年貢米八石六斗七升五合ニ相戻シ候急度相納メ可申、右約定仕候上者決テ違変不仕候。万一壱ケ年ニテも不納仕候ハヽ、本人係ラズ請人之者ヨリ急度弁償仕決シテ貴殿ニ御難儀相掛申間敷候。且亦小作売渡シ等ノ事ハ一切不仕依而小作証書依而如件

小作人　永田藤平次㊞

明治廿五年　第三月　日

右請人中村　中巻茂兵衛㊞

永田亀吉殿

永田亀吉殿

爲念約条証書

一、東枝田地年貢米玄米ニテ
八石弐斗七升五合
一、金拾五圓ハ拾六銭三厘
三ヶ年年賦五圓弐拾八銭七厘ツヽ
一、七貫〆引受壱石〇三升
二ヶ年年賦五斗壱升五合
一、字蒸氣三年借家肥代
糯米六斗
一、よし島田地ノ年貢米玄米ニテ
壱石六斗
一、東久弥田地年貢米　同
弐石弐斗五升三合

右六本証書之通リ無相違急度相納メ可申候。決シテ違変不仕候。依テ爲後日之如件

小作人
永田藤平次㊞

明治廿五年
第三月　日　右請人
中巻茂兵衛㊞

記

一、金三十七銭　十四年十二月迄分
一、〃弐銭壱厘　十五年度地方税
一、〃十六銭壱厘　十五年度第壱第二
一、〃三銭弐厘　明治九年ヨリ同十三年
迄五ヶ年分草生地税
一、〃壱銭七厘　十五年度後半地方税
一、〃拾銭八厘　臨時費割
一、〃四厘　公税金
一、〃四銭九厘　十五年度協議費
〆七拾六銭弐厘

（包紙）「一札　松屋徳右衛門証文」

覚

一、銀七貫九拾弐匁八分五厘請取
一、金三両弐朱　相渡シ

右之金当辰十二月迄差引通手尻皆済慥御受取申候。尤此外ニ金銀出入等一切無御座候。
爲後日依而如件

明治元辰年
十二月　松屋徳右衛門㊞

永田屋平治郎殿

覚

一、七〆五拾弐匁八分五厘
此金四拾六両三歩弐朱
百六十二匁替　又百七十八文
内三両弐朱引
〆四拾三両三歩ト
百七十八文
但シかり受取候

覚

一、金拾両也　但当月廿六日渡シ
右ハ松屋徳右衛門勘定
之分慥受取申候　以上
十二月廿二日　松屋兵五郎
永田屋平次郎殿

軸物

一、売附覚　日々喜一印酒百太
百三拾目替
代金千三百目也
右之通目出度賣附申候也
明治十八年十二月吉辰
高井房治郎㊞
永田平治郎殿

一、攝津国菟原郡村々　明治十四年三月
山林原野大表　改正反別地価地租一覧表
以上

本庄村史資料

永田家文書（近世・明治）

一九八七年六月二十日発行

編著者　本庄村史編纂委員会

発行所　神戸深江生活文化史料館
神戸市東灘区深江本町三ー五ー七

印刷所　印刷ショップ　フタバ